

明治十三年十月七日
丁第三十八號達

○公債利賦金拂渡取扱手續

- 第一條 凡公債ノ利賦金ハ其利賦札ト交換成規取扱心得書第三ノ期限ヲ以テ拂渡スモノトス故ニ縣廳於テハ每期價主ノ姓名及ヒ利息又ハ年賦金ノ額ヲ取調ヘ而人別書ヲ製シ該金ト共ニ其拂期限前之ヲ郡役所ヘ渡スヘシ
- 第二條 郡役所於テ受取タル金高ハ拂濟迄ノ間現金ヲ以テ特ニ之ヲ監守スルコトス
- 第三條 利賦金拂渡ノ期前ニ到レハ縣廳於テハ公債証書取扱心得書第四條第一項ノ手續ニ據リ別段ノ布達ヲナスヘシ因テ各郡役所ニ於テハ右期限内ニ到リ適宜ノ日割ヲ以テ尙各債主呼出ノ達方ヲナスヘシ
- 第四條 利賦金請取トシテ債主出頭スレハ先其持參スル

- 利賦札ト其調書此書式ハ十三年六月公第五號諭達公債更正ノ據トヨ照查シ而利賦札ノ年例ハ十三年十一月ニ記載アルヲ認メ種類記番號ヲ調書ニ校合シ且全金額ヲ計算シ之ヲ收入シ而後利賦金即現金ヲ交付シ人別牒姓名及金員等へ請取ノ証印ヲサシムヘシ
- 第五條 此請取証印ヲサシムル前其出ス所ノ利賦札調書ノ名印ヲ以テ印鑑簿ニ就キ照查ヲ遂ケ相違ナキヲ認ムヘシ
- 第六條 此賦金請取方ニ付代理ヲ以テ申出ル者ハ明治十三年一月甲第二十二號及第二十三號布達並同年二月公第一號諭達改正公債証書取扱心得書第十九條等ニ據リ委任狀及代理人届書ヲ認トメ該金ヲ拂渡スヘシ

但此時ハ委任狀ノ名印ヲ以テ印鑑簿ニ就キ照査ヲ遂
クヘシ

第七條 代理人提供スル所ノ委任狀ハ係吏員之ヲ公認シ
タル後寫書一通ヲ出サシメ後証ニ供スル爲之ヲ收受保
存シ置クヘシ

第八條 債主持參スル利賦札或ハ其所有証書ノ幾部分ナ
ルキハ他ニ委任セシムルヒ其利賦札並他ノ一方ノ利賦札
共各區分記載シタル利賦札調書種類記番號等ヲニ據リ
前第六條ノ手續ヲ經現ニ持參シ利賦札ト交換該金ヲ拂
渡スヘシ

第九條 利賦金拂渡ノ期ニ際シ若該利賦札ヲ紛失又ハ遺
失セシ等ノトアレハ成規ノ通縣廳ヘ届出シムルハ勿論

尙別ニ其存在ノ利賦札ト紛失又ハ遺失等ノ利賦札ト區
分記載タル利賦札調書種類記番號等ヲ出サシメ而其
存在利賦札ニ該利賦金ノミヲ拂渡スヘシ

第十條 利賦金拂渡ニ際シ若シ該利賦札ヲ燒失又ハ流失
セシ等ノトアレハ其金高枚數種類記番號及事實ヲ詳記
タル届書ヲ出サシムヘシ郡役所於テハ尙其事實ヲ推究
シ事故判然タレハ書面ヲ副ヘ縣廳ヘ届出ヘシ

但燒流失ノ事故判然セサレハ前第九條紛失遺失ノ手
續ニ據リ處分スヘシ

第十一條 前數條ノ手續ニ據リ拂渡シタル利賦金ハ其期
限後十日間ヲ限リ決算ヲ遂ケ勘定牒ヲ製シ而其收入タ
ル利賦札ハ各種類ヲ區分シ百枚毎ニ結束糊紙封印シ利

賦金人別牒印^拂濟請取証^ト一同之ヲ縣廳へ送致スヘシ

第十二條 利賦金勘定牒及利賦札還納証書書式

明治何年何月渡何公債利(賦)金受拂勘定牒

一金何萬何千圓 縣廳ヨリ受取高

此交換

金何千何百圓 何某外何百人

何利(賦)札何千枚

金何千何百圓 何某外何百人

何利(賦)札何千何百枚

啟

金何万何千圓 拂出

利(賦)札何万何千枚 收入

差引

一金無 利賦札何万何千枚

右ハ明治何年何月渡何公債利(賦)金受拂勘定仕上書面
ノ通相違無之候也

明治何年何月何日 郡長姓名印

縣令宛

利(賦)札還納証書

一何公債利(賦)札何万何千枚

内譯

何利(賦)札何千何百枚

内

何圓札 何拾枚

何圓札 何百枚

何圓札 何拾枚

何利(賦)札何千何百何拾枚

内

何圓札 何百枚

何圓札 何拾枚

何圓札 何枚

右還納候也

明治何年何月何日 郡長姓名印

縣令宛

第二章 町村事務

○戸長職務條例

明治十二年十二月五日 丙第百五十二號達

第一章 總則

第一條 戸長ハ每町村又ハ數町村ニ壹名ヲ置クモノトス

第二條 戸長ハ其町村人民ノ公撰ニシテ郡長ノ具狀ニ依

リ縣令之ヲ命ス

但郡長ニ於テ職務不適當ト見認ル時ハ其旨具狀シ縣

命ノ認可ヲ得テ更ニ公撰スルヲ得

第三條 戸長ハ縣令又ハ郡長ノ命令ヲ奉シ行政事務ニ從事スルト其町村ノ理事者タルト二様ノ性質ノ者ニシテ郡長ノ監督スルトコトナリ

第四條 戸長ニ附屬スル用掛筆生手傳人等ヲ雇フキハ其族籍姓名年齢及ヒ給額等ヲ詳ニシ郡長ノ許可ヲ得戸長ニ於テ申付クベシ

第五條 戸長疾病事故ニ依リ不在ノ節ハ用掛筆生又ハ手傳人ヲ以其職務ヲ代理セシムルヲ得

第六條 戸長職務概目等ニ掲載ノ事務取扱諸費ハ地方税ヨリ之ヲ支給ス其町村限り又ハ數町村共同ノ利害ニ係ル諸費ハ其町村ノ協議ヲ以テ地價割戸數割等適宜ノ方

法ヲ設ケ之ヲ支辨スヘシ

第二章 職務取扱心得

第七條 戸長職務概目ノ件々ハ勿論縣廳又ハ郡役所ヨリ臨時相達スル諸取調事等期限ヲ愆ラサル様精々注意シ諸布達達等人民へ告示ス可キ事件ハ遺漏ナク町村内へ回示シ趣意不了解ノ者へハ懇篤説諭ニ及フ可シ

第八條 人民ヨリ縣廳又ハ郡役所へノ願伺届等ハ別段ノ成規アルモノヲ除クノ外總テ與書証印ス可シ若シ戸長別ニ所見アルモノハ意見書ヲ附シ縣廳又ハ郡役所へ開申シ戸長限りノ届書面不都合ノ廉コレアル分ハ一應説諭ヲ加へ修正セシムルモ妨ケナシト雖モ其意見ヲ變更スルヲ得ス

第九條 戶長ハ掌管ノ事務ニ付テハ他府縣戶長ヘ文書ヲ往復スルコト得然シテ時々郡長ヘ届出ヘシ
 第三章 月給並旅費定則
 第十條 戶長月給ハ表面ニ依リ毎月十七日支給スルモ、トス其以下日給ニ係ル分ハ毎月末日ヲ以テ支給ス可シ
 第十一條 行政事務ニ付出張又ハ巡回シ節ハ表面ニ依リ相當ノ旅費日當ヲ支給ス可シ
 第十二條 晝夜急行ノ旅費ハ赴任旅費同額ヲ支給ス可シ
 第十三條 月給並旅費支給ノ方法ハ都テ本年三月十八日乙第廿六號達郡長郡書記以下月給並旅費規則ニ準據ス可シ

第十四條 用係筆生手傳人等ノ雇給ハ日給金拾八錢以下ヲ以適宜相定メ支給ス可シ

戶長月給等級表		
戶長等級	月給	備
等外一等	八圓	戶長以下管内旅費日當表
等外二等	七圓	並旅行
等外三等	六圓	巡廻
等外四等	五圓	赴任旅行
		滞在
一等	六拾錢	壹圓
二等	四拾五錢	貳拾五錢
		拾八錢

○戸長職務取扱手續

明治十二年二月十八日
乙第廿四號達

第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事

布告布達ノ配布アレハ直ニ其町村内戸主ノ姓名ヲ列記シ公布ニ添ヘ戸毎ニ傳達シ其姓名ノ下ニ捺印ヲ徵シ周尾ヨリ還付セシムヘシ其至急ヲ要スル事件又ハ期限アル公布ハ戸主ヲ召集シ讀聞カスルカ或ハ雇夫ヲ以テ戸毎ニ觸達セシメ而シテ後傳達等ノ手續ヲ爲スコアルヘシ但町村ノ協議ニ依リ保伍長等ノ者ヲ置キ公布傳達ノ便ヲ設クルハ勝手タルヘシ

第二 地租及諸税ヲ取纏メ上納スル事

地租及諸税ハ成規定例ニ依リ期限ヲ誤ラス取纏メ郡役所へ上納スヘシ

第三 戸籍之事

生死婚姻相續養子分家失踪逃亡改宗他行編籍寄留等ノ諸届従前縣廳及區長へ差出シ來ルモノト雖モ都ヲ戸長ニ於テ承認シ戸籍簿ノ加除ヲ爲シ每一月限郡長へ進達スヘシ尤脱籍ノ者處分貫屬替願改葬願及士族ノ相續養子女分家願民籍編入願等ハ其都度郡長へ差出ヘシ但明治十年縣廳甲第七十七號十一年甲第十二號廿四號廿七號六十四號乙第廿九號四十五號五十六號六十號七十八號九十三號百廿六號百三十三號百四十五號二百三十二號二百四十八號達等参照スヘシ

第四 徵兵下調ノ事

徵兵令ニ依リ其町村内ノ徵兵適齡及國民軍相當ノ人名

書ヲ取纏メ且免役ノ當否ヲ檢シ明治十一年縣廳乙第百八十七號達ノ通年齡記載ノ誤リ及脫漏ナキ様精密調査ヲ遂ケ期限ヲ誤ラス郡長ヘ進達スヘシ

第五 地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ與書加印ノ事
明治六年一月第十八號公布地所質入書入規則八年九月第百四十八號公布建物書入質並賣買讓渡規則十年三月第廿八號公布船舶云々等ノ旨趣ニ依リ取扱証印ハ戶長ノ實印ヲ押シ割印ハ戶長役所印ヲ用ユヘシ

第六 地券臺帳ノ事
町村内ノ地券臺帳ヲ製シ置キ地所賣買讓渡及荒地開墾起返其他地所變換等ニテ地券書換願出許可ノ上ニ登錄加除スヘシ

第七 迷子棄兒及行旅病人變死人其他事變アルキハ警察署ニ報知ノ事

迷子棄兒行旅病人變死人其他事變アルキハ直ニ警察署又ハ分署ヘ報告スヘシ棄兒ハ養育人ノ有無ヲ取調郡長ヘ届出行旅病人ハ辛未六月十七日公布及本年縣廳乙第三號達ニ照準處分之後郡長ヘ具申スヘシ

第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事

水火風震又ハ非常ノ難ニ罹リ目下窮迫ノ者アルキハ實際ノ景況及救助施行ノ事ヲ郡長ヘ具狀スヘシ

第九 孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事
孝子節婦義僕等篤行ノ者アルキハ其成績詳細調査ヲ加

へ郡長へ具狀スヘシ

第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事

町村内ノ幼童學齡ニシテ不就學ノ者アル時ハ其父兄へ
説諭ヲ加へ就學ヲ勸誘スヘシ若シ貧窮ニシテ不就學ノ
者アレハ其旨郡長及學區取締へ具狀スヘシ

第十一 町村内ノ人民ノ印影簿ヲ整備スル事

町村内人民ノ印影簿ヲ整備シ改名及改印ノ都度爲届出
加除スルヲ要ス若シ人民ノ實印取調ル事アルキハ其印
影簿ニ照シ實否ヲ査定スヘシ

第十二 諸帳簿保存管守ノ事

戸籍帳地券臺帳印影簿及町村内ニ配布スル布告布達其
他ノ文書等類別編綴シ散亂セサル様保存管守スヘシ

第十三 官費府縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保

存スヘキ物ニ就キ利害ヲ具狀スル事

官費縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スヘキ

物ニ就キ官民ノ利害ニ關スル事アルキハ其意見及實地

ノ景況等詳細郡長へ具狀スヘシ

第貳卷 鹿兒島縣諸規則

○第一章 庶務

戶長選舉法

一丁

寄留届式

四丁

人民諸申牒認メ方

六丁

○第二章 勸業

農學校假規則

十三丁

小形旅客汽船取締規則

三十三丁

○第三章 租稅

營業稅雜種稅規則

四十三丁

酒造稅則附則

六十七丁

○第四章 地理

民有之山林伐採心得
自用薪木挪下規則
地所並山林立木挪下出願
鹿兒島港共同物揚場規則

百丁
百五丁
百六丁
百七丁

○第五章 學務

學務委員職務心得
鹿兒島中學生徒東京留學規則
鹿兒島師範學校規則

百十丁
百十一丁
百十六丁

附々屬幼稚園保育見習科規則

百七十八丁

中學規則

百九十九丁

生徒貸費並償還規則

二百廿五丁

○第六章 衛生

衛生委員設置方法

二百廿八丁

○第七章 公債

公債証書取扱心得書

二百三十四丁

○第八章 警察

娼妓規則

二百九十五丁

貸座敷規則	二百九十六丁
娼妓規則	三百二丁
飲食店取締規則	三百七丁
演劇取締規則	三百九丁
俳優取締規則	三百十二丁
諸獸屠殺取締規則	三百十三丁
諸獸賣肉取締規則	三百十五丁
威銃取締規則	三百十七丁
賣淫罰則	三百二十丁
違式註違條例	三百廿二丁
旅人宿規則	三百三十丁

四

第壹章 庶務

○戸長撰擧法

明治十二年十月十六日
甲第百六十一號達

- 第一條 戸長ハ別ニ定ムル所ノ各町村分畫ニ依リ一町村
又ハ數町村ニ一人ヲ公選ス可シ
- 第二條 戸長タルヲ得ヘキ者及ヒ之ヲ選舉スルヲ得ヘキ
者ハ滿廿五年以上ノ男子ニシテ該郡役所處轄内ニ本籍
ヲ定メ其町村内ニ住居スル者ニ限ル
- 但左ノ各款ニ觸ル者ハ戸長及選舉タルヲ得ス
- 第一款 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者
但國事犯ハ此限ニ非ス
- 第二款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三款 官吏及ヒ教導職

第三條 選舉ノ投票ハ郡長ヨリ附與シタル用紙ニ同所轄郡内選舉人中互選ノ法ヲ以テ被選人選舉人ノ住所姓名年齢ヲ記シ實印ヲ捺シ糊封ノ上選舉會場ニ於テ之ヲ郡長ニ出スヘシ郡長ハ其投票ノ多少ヲ點檢シ最多數ノ者ヲ以テ當選人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ圖ヲ以テ之ヲ定ム若シ當選人其選ヲ辭スルカ或ハ法ニ於テ不適當ナルキハ順次多數ノ投票ヲ得タル者ヲ取り本人並撰舉人ヘ示シ本廳ヘ具狀ス可シ但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシト雖モ戸長ニ托スルヲ得ス

第四條 投票ノ期日及選舉會場其他ノ細則ハ郡長之ヲ定

メ少クトモ一周間以前ニ其町村内ニ通達スヘシ

第五條 選舉ノ際其事情該町村ノ治否ニ關係スルト認ル時ハ時機官選ヲ以テ特ニ任スルコモアルヘシ

第六條 戸長ハ三ヶ年毎ニ改選ス但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第七條 戸長任期中ト雖モ第二條ニ掲クル諸款ニ遭遇スルカ或ハ其所轄郡外ニ移住スルカ或ハ事故アリテ退職セシムル時ハ該町村内人民ニ於テ第三條ノ手續ニ依リ更ニ其欠ニ代ル者ヲ選舉セシムヘシ

第八條 選舉人ノ任ニ當ル者選舉會公告前ヨリ他行シ會期ニ至リ尙ホ歸郷セサル者或ハ會期時日ニ投票セサル者ハ該選舉ノ事ニ付後日異議アルヲ得ス

第九條 他へ寄留届り者選舉人名簿確定ノ后ニ至リ歸籍
シ或ハ他ヨリ轉籍ノ者ハ選舉人タルヲ得ヘキ者ト雖モ
其度限リ選舉人タルヲ得ス

甲第七拾七號

他管下ヨリ當管内へ寄留ノ者及管内甲區ヨリ乙區へ寄留
ノ者共左ノ書式ニ照シ出入共該寄留地ノ戶長事務扱所へ
可届出此旨布達候事

明治十二年十二月 日

鹿兒島縣令岩村通俊

書式

某管下(御管下)第何大區何小區

某町村何番地居住(借家)(同居)

士族(平民)何職業

何ノ誰
何年何月何日生

母誰
何年何月何日生

妻誰
何年何月何日生

幾男
何年何月何日生

幾女
何年何月何日生

合男何人
女何人

右何々ニ付第何大區何小區某町村番地士族(平民)何ノ誰方
ニ寄留候處此節歸家(某所へ轉居)候ニ付此段御届申候也

第何大區何小區

戶長

御中

甲第廿七號

昨十二年甲第七拾六號ヲ以テ寄留人届書式相達候處右者
平民ニ限リ戸主備主請人ノ内ニテ証印可致此旨布達候事

明治十一年三月五日

鹿兒島縣令 岩村通俊

乙第三十一號

區 戶長

從來人民諸申牒認メ方區チ區チニテ調査上指支メ夫カ爲
往復推問ヲ重ネ官民ノ不便宜不少候ニ付爾來諸申牒認メ

方左ノ通相心得尙區内人民ヘモ示達可致置此旨相達候事

明治十一年二月七日

鹿兒島縣令 岩村通俊

一諸申牒ハ都テ事情ヲ確實明瞭ニ書述ルヲ要トシ必ス虚
飾冗文ヲ不用様注意スベシ

但片假名又ハ平假名共取交セ書述候義固ヨリ苦シカ
ラス

一各地ノ方言及ヒ他方ニ通セサル名稱等ハ都テ注解ヲ加
ヘ又ハ脇假名ヲ附スヘシ

一諸申牒ハ都テ甲號書式ノ通り本文ノ要領ヲ冒頭ニ摘書
シ願人又ハ届人ノ住所族籍姓名ヲ明瞭ニ記載シ然シテ
願意ヲ書述ヘシ

一從來ノ諸申牒年月而已ヲ記シ日附無之向往々有之不都

- 合ニ付爾來ハ年月日トモ詳記スベシ
- 一 諸申牒ハ都テ當人ノ實印ヲ用ユベシ或ハ彫刻中等ニテ實印在リ合ハサルキハ花押又ハ拇印ヲ用ユベシ
- 但幼年ノ戸主ハ都テ後見人ヲ連書シ後見人ノ實印ヲ用ユベシ
- 一年齡記載ヲ要スルモノハ都テ何年何ヶ月又ハ滿何年ト記載スヘシ
- 一 常例モノ又ハ瑣末ノ事件等當人願意通りニテ別段區戸長ノ意見無之モノハ別紙甲號書式ノ通り正副戸長戸長與書連印シ區長ハ正副ノ内壹人役印ヲ捺スニ止ムヘキ事
- 一 當人ノ申牒上而已ニテハ願意充分明暢ナラス或ハ實地

- ノ事情ニヨリ必許可ヲ要セシヨヲ乞フ者ハ區戸長意見書ヲ詳記シ當人ノ願書ニ添ヘ指出スヘシ
- 一 人民ノ諸申牒ハ都テ區戸長手前ニ於テ謂レナク抑塞スベカラサル等ニ付或ハ實際指問ヘ有之等ノ見込アルモノハ意見書ヲ添ヘ速ニ上申スベシ
- 但事理明暢ナラサル等ニテ字句ヲ引直サヌル類ハ此限ニアラス
- 一 士民婚姻又ハ平民相續養子等區長迄指出スヘキ書面ハ都テ乙號書式ニ照シ取扱フヘシ
- 一 無筆ニテ自己書面ヲ認ムル能ハサルモノハ戸長事務扱所ニ於テ認メ遣ハス事アルヘシ

區長事務扱所

此段御承認被下度(御届申)候也

明治何年何月何日

苗字名印

朱 區長 何某 殿

扱所
割印

書面申立之趣承認候也

明治何年何月何日

區長
役印

第二章 勸業

○鹿兒嶋縣農學校假規則

明治十四年二月廿四日
甲第三拾號達

目次

第一章 校則

第二章 教則

第三章 教場規則

第四章 寄宿舍規則

鹿兒嶋縣農學校假規則

第一章 校則

第一條

本校ハ專ラ内外ノ農事ヲ折衷取捨シ其ノ宜ヲ制
セシトスルヲ以テ本旨トス

第二條 生徒ハ躰質健康ニシテ種痘又ハ天然痘ヲ歴テ農
事ニ耐ユベキ者タル可シ

第三條 當分ノ内農學生徒百名(自費)ヲ定員トス

第四條 生徒學資ハ摠テ自辦タルベシト雖モ課業上必用
ノ書籍器械等ハ時宜ニ由リ校有品ヲ貸渡ス事モアルベ
シ

- 第五條 生徒ハ病ニ罹リ成業ノ目途ナキカ又ハ万一止ムヲ得ザル事故アルモノ、外ハ退校スルヲ許サス
- 第六條 入校ノ生徒ハ品行ヲ正クシ諸規則ヲ破ラザルハ勿論若シ犯ス者ハ或ハ懲シ或退校セシムルコトアルベシ
- 第七條 生徒ハ月謝及舎費等ヲ納ムルニ及パス
- 第八條 本校ハ當縣内ノ者ニ限り教授スト雖モ時宜ニ由リ他縣下ノ者タリトモ當管内ニ寄留スル者ハ教授スベシ
- 第九條 入學ヲ願フ者ハ左ノ入學願書並ニ履歷書ヲ以テ本校事務所へ申出ベキ事

第一號

入學願書式 (用紙美濃紙)

入學願書

私備農學志願ニ付入學相願候就テハ諸御規則固ク相守勉勵可仕候御試驗ノ上御許可被下度候也

住所

族籍何某何男

年號月日

苗字名印

何年何ヶ月

鹿兒島縣農學校

御中

第貳號

履歷書式 (用紙前同斷)

履歷書

一何年何月何地(官公私)立何學校ニ於テ或ハ教師誰ニ就キ
何學修業用書何々何年間修業仕候也

住所

族籍 何某何男

年號月日

苗字 名 印

何年何ヶ月

鹿兒島縣農學校

御 中

第三號

証書式(用紙美濃紙)

私儀志願ニ依テ御試験ノ上入學御許容ニ付テハ校中
諸規則堅ク相守リ學業勉勵可仕候依テ御請如斯候也

住所

族籍 何某何男

年號月日

苗字 名 印

何年何ヶ月

鹿兒島縣農學校

御 中

第四號

保証書式(用紙證券界紙)

住所

族籍 何某何男

苗字 名

何年何ヶ月

右之者御試験ノ上入學御許可ニ付テハ本人請書ノ通勤
學中一切ノ事件私引請可申ハ勿論御校則堅ク爲相守卒
業ニ至ル迄ハ半途ニテ退學或ハ轉學等猥リニ爲仕間敷
候仍テ証印仕候也

住所族籍
年號月日 右保証人 苗 字 名 印

鹿兒島縣農學校

御 中

第二章

教則

一 學校名稱及地名

鹿兒島縣農學校

日向國宮崎郡宮崎

一 學校資金

地方稅

一 生徒教養ノ目的

第一條 本校ハ將來農業ノ模範タル可キ者ヲ教授スル所
ナレバ殊更ニ該校ニ入ル者ハ能ク其主旨ヲ了解シ懇切
ニ學業ヲ修メ實際ニ農事ヲ經驗スヘキ事

第二條 本校ノ生徒タル者ハ僅年間ニ將來世益ヲ興スヘ
キ學術ヲ修成セントスル志願ナルヲ以テ寸陰ヲ惜ミ刻
苦勉勵シテ解ルコトナカルベシ

一 學期

第一條 生徒ノ在學期限ヲ滿ニケ年ト定メ從テ此ヲ四學期ニ分ツト雖モ實際學術ノ進否ニヨリ伸縮スルヲアルヘシ

第二條 每學年ヲ分ツテ二學期トス則チ第一期ハ二月一日ヨリ七月十五日ニ至リ第二學期ハ八月十五日ヨリ一月三十一日ニ至ル

一 授業日限

第一條 一ケ年内授業日數概テ二百七十八日ニシテ學年ハ八月十五日ニ始マリ翌年七月十五日ニ終ル

一 授業時限

第一條 當分ノ内一日ニ七時間ヲ以テ授業時ト定ム從テ一週合計四十二時間トス

一 休業

第一條 每學年中定式ノ休日左ノ如シ

毎日曜日 毎土曜日半日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

神嘗祭

秋季皇靈祭

天長節

新嘗祭

夏季休業ハ七月十六日ヨリ八月十四日ニ至ル（夏季休業ハ農場作業物收納ノ期節ニ當リ都合）冬季休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月三日ニ至ル

每定期試験ノ後三日間ヲ休業トス

一 入學生徒ノ年齢

第一條 生徒入學年齡ハ概テ十八年以上三十年以下タル
ヘキ事

但シ學業優等ノ者ニシテ農事ニ篤志タル者ハ此限ニ
非ス

一入學生徒ノ學力

第一條 生徒募集ハ學年期ノ初ニ於テシ左ノ試験ヲ經テ
合格ナル者ヲ擧グベシ尤モ生徒欠員アルキハ臨時入學
ヲ許スコトモアルベシ

但シ入學季日並ニ生徒員數等ハ前以テ廣告ス

農學生徒入學試験課目

- 一 讀書 片假名本 一 數學 加減
- 一 作文 普通 一 筆記 一 算格 檢査

第一條 農學ノ課程ニ依リ書籍講義ヲ以テ之ヲ教ユ其足
ラサル處及實地ノ慣熟ヲ要スルモノハ臨時實業ヲ以テ
之ヲ授ク

第二條 作物栽培經驗ノタメ校内ニ實習農場ヲ設置キ若
干ノ場圃ヲ毎日生徒ニ耕耘セシム

一 試験

第一條 試験ヲ分テ二トス一ヲ月末試験トシ一ヲ定期試
験トス

第二條 月末試験ハ小試験ニシテ毎月末ニ之ヲ施行シ評
點ヲ記簿シ而シテ定期試験ノ評點ニ照合シテ其優劣ヲ判
シ點數ヲ掲ケ席順ヲ定ム

第三條 定期試験ハ每學期ノ終リトシ即チ毎年一月七月

ノ兩度縣官立合ノ上之ヲ施行ス
但シ其期ハ前以テ廣告ス

第四條 全科卒業ノ後大試験ヲ施行シ卒業證書ヲ授與ス

第五條 諸試験各學科最上點ヲ百ト定ム

第六條 定期試験ノ點數エハ一期中小試験ノ點數合計ヲ

試験回数ニテ除シタル數ヲ加テ最上點ノ五分ノ三以上

ヲ得ルモノハ次期ノ課目ヲ講授セシメ其點ニ達セサル

モノハ尙前期ノ課目ヲ復習セシムルヲ法トス

但シ點數最上點ノ五分ノ三ニ達スルト雖一科ノ點數

最上點ノ三分ノ一ニ足ラサル者ハ昇級ヲ許サズシテ

更ニ其科ヲ復習セシメテ后臨時試験ヲナスベシ然モ

其科一期中小試験ノ平均點最上點ノ二分ノ一以上ニ

及ブ者ハ昇期ヲ許ス

第七條 定期試験ノ際病氣或ハ止ムヲ得サル事故等ニテ

欠席スル者ハ試験後一ヶ月以内ニ出席スルキハ臨時試

験ヲ施ス可シ

第八條 一期中ニ三分ノ一以上欠課スル者ハ定期試験ヲ

施サス

第九條 小試験ノ際病氣等ニテ欠席スル者ハ後日出席ス

ルモ臨時試験ヲ施サス

第十條 定期試験ノ時各生ノ學業進否ヲ証センタメ試験

點等表ヲ示ス

第十一條 定期及卒業試験ノ時ハ生徒ノ親戚ニ限リ望ノ

者ヲ參觀ヲ許ス

第十二條 農學科卒業ノ者ニハ左ノ卒業證書ヲ授與スヘ

中事

農學科卒業證書式(用紙未定)

何府 縣族籍	苗字 名
鹿兒島縣農學校卒業候事	何年何ヶ月
年號月日	
鹿兒島縣農學校	
印	

農學校學科課程表

學科		農學		農用化學		植物學		動物學		地質學		農家經濟學		測量術附圖學		算術		農場實習	
週一	第一一年第一期	週一	第四級	間時六	大意	間時三	農用植物ノ組織 解剖及綱目	間時三	動物學 綱目等類及	○	○	○	○	○	○	間時六	平算	時十五至 時二十	農場實習
週一	第一一年第二期	週一	第三級	間時六	大意	間時三	學生ノ理 大及病理	間時三	學生ノ理 大及病理	○	○	○	○	○	○	間時六	代數學	時十五至 時二十	農場實習
週一	第二一年第一期	週一	第二級	間時六	大意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	間時六	幾何學	時十五至 時二十	農場實習
週一	第二一年第二期	週一	第一級	間時六	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	間時六	三角術	時十五至 時二十	農場實習

第三章

一 教場規則

- 第一條 校則ハ勿論諸揭示ノ旨趣ニ反戾スヘカラサル事
- 第二條 教場ニ在リテハ萬事教員ノ指揮ニ從ヒ身体衣服ヲ正シクシ敬テ業ヲ受ク可キ事
- 第三條 授業時限五分前教場ニ入り受業必用ノ書器等ヲ抱テ整頓ス可シ
- 第四條 教場ノ出入ハ勿論互ニ禮讓ヲ主トシ務メテ靜肅ニスヘシ
- 第五條 授業中病氣或ハ止ムヲ得サル事故アルキハ教員ノ許可ヲ得テ進退スヘシ
- 第六條 生徒教場ニ臨ムノ際ハ洋服或ハ着袴勝手タリト

雖モ實習場ニ在テハ洋服又ハ股引脚半ヲ用ユ可シ
第七條 實習時間ニ當リ降雨ノ際ハ教場ニ於テ科業書ヲ
復習或ハ質問セシム

第八條 無届ニテ欠席スルヲ許サス若シ止ムヲ得サル事
故アリテ欠席スルキハ受業時間五分前迄ニ其掛ユ届出
ツヘシ

第九條 教員及掛役員ノ許可ナク恣マヽニ教場ノ諸品ヲ
取扱ヘカラサル事

第十條 教場ニ在リテハ雑話戲笑喫烟及新聞紙等ヲ見ル
ヲ禁ス

第十一條 暴論爭鬪スヘカラサル事

第十二條 教場ニ在リテハ座席ヲ亂シ或ハ教員ノ許容ナ

クシテ坐席ヲ離ルヘカラサル事

第十三條 出席及課業ノ時刻ヲ誤ルヘカラサル事

第十四條 戸障子其他ノ物品ヲ破損スヘカラサル事

第十五條 建物ニ傷ヲ付ケ或ハ樂書ヲナズヘカラサル事

第十六條 布達書及揭示書等ヲ破裂塗抹スヘカラサル事

第十七條 校内ニ於テ雜踏奔走高呼スヘカラサル事

第四章

寄宿舎規則

第一條 在舎生タル者ハ言行ヲ謹ミ相互ニ信義禮讓ヲ竭
シテ交誼シ苟モ學生ニ耻ツヘキ舉動アルヘカラサル事

第二條 學業ニ從事シ努力勉勵スヘキ事

第三條 時限ヲ堅守シ規則ヲ遵奉スルハ校中ノ樞要ニシ

之ヲ破ル者ハ其輕重ニ依リ之ヲ懲シ或ハ退校ヲ命スルコソルベシ

第四條 生徒中ヨリ撰拔シテ每室ニ室長一名ヲ置キ總室ノ取締ヲナサシム

第五條 生徒申告スヘキ事件ハ總テ室長ニ告グ其指示ヲ受クベキ事

第六條 生徒ハ常ニ身軀ヲ清潔ニスヘシ或ハ衣服不整頓ニシテ外出ス可カラス

第七條 室内ハ毎朝生徒交替之ヲ掃除スベシ若不潔ニシテ整頓ナラザルハ室長亦其實ニ任ゼシキ事

第八條 故ヲニ居室戸障子等ヲ破毀スル者ハ修覆料ヲ辨償セシムベシ

第九條 生徒若シ病アレハ醫ヲ招キ診察セシメ其重キハ

引請人ニ付シ或ハ病院ニ入ラシメ其輕キハ病室ニ入ラシメ總テ療養セシム又攝生ノ方ニテ外出ヲ乞フモ醫員ノ証ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ許サス

但シ病室ノ出入ハ總テ醫員ノ指示ニ從フ可シ且ツ藥價診察料等ハ自費タルベシ

第十條 門ノ出入ハ必ラス門鑑ヲ以テスルコト出ルルハ之ヲ門衛ニ渡シ亦入ルルハ之ヲ收メ決シテ遺失スベカラザル事

第十一條 臨時外出ヲ請フモノアレハ取締先ニ其由縁ヲ一應尋問シ事實止ムヲ得サル事アラハ其事故ヲ書認メ取締ニ出スルハ臨時外出ヲ許容ス

但シ臨時外出ハ親族ノ病變或ハ不時ノ災難等ニテ止
一 得ルベシ事

第十二條 舍内或ハ室内ニ於テ放歌吟詩等ナス可カラズ

○小形旅客汽船取締規則

明治十四年二月廿四日
甲第三十一號達

第一章 總則

第一條 聯合府縣 大坂府 兵庫縣 長崎縣 岡山縣
廣島縣 山口縣 熊本縣 德島縣 高知縣 愛媛縣
福岡縣 大分縣 鹿兒島縣 內及管内ニ於テ運漕スル公
稱馬力五十未満ノ旅客汽船ニテ特ニ宥恕スベキ件ハ各但
加フハ總テ此規則ヲ遵守スベシ
但公稱馬力五十以上ニ雖モ船体汽機ノ模樣ニ依リ特
別命令シテ此規則ヲ遵守セシムルコトアルヘシ
第二章 船体汽機及所屬品ノ事

第三條 本船々体及ヒ所屬品ハ必ズ左項ニ掲タル如ク整
備スベキモノトス

第一 船体ハ材料其他諸部堅牢ヲモテ十分ニ整
備セシモノ

第二 甲板上ニハ其兩側ニ必ズ水吐孔ヲ設ケ且甲板面
ハ填茹ヲ以テ充分ニ罅隙ヲ塞キ水ノ漏泄ナキモノ

第三 但甲板ナキ小船ハ此限ニテラス

第三 甲板ニ設ケタル出入及荷積口ハ其縁材必ズ甲板
面ヨリ高キモノニテ風波等ノ際船内ニ水ノ流入ヲ防
キ且ツ之レヲ密閉スベキ外套ヲ備フルモノ

但前同斷

第四 甲板上船舷ナキモノハ必ズ周圍ニ欄干ヲ設ケ其

高サ並尺口低カラザルモ其
 第五 室内空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設ケルモノハ堅固ナ
 ル戸扉ヲ備フルモノ
 第六 端船ヲ釣ニ得キ船体ニ於テ必ズ之ヲ備ヘ其
 附屬品全備シ不時ノ用ニ適スルモノ
 第七 舵ハ其取付堅牢ニシテ必ズ豫備ノ轉舵索ヲ船尾
 ニ備ケルモノ
 第八 羅盤及ヒ救命浮子各壹個以上ヲ備ヘ其救命浮子
 一但救命浮子ハ鹿兒島灣内往復ノ分ニ限リ適宜ノ品
 用ユルモ妨ケナシ
 第九 火災ニ充ツル相當ノ消防器具ヲ備ケルモノ

第十 船ノ噸數ニ應ジ其量目及ヒ夫サ適合セル錨及
 錨鎖各貳個以上ヲ備ケルモノ
 但鹿兒島灣内往復ノ分ニ限リ壹個ヲ外ニ適宜ノ品
 ヲ用フルモ妨ケナシ
 第十一 掲燈及ヒ信號器ハ總テ其製造規則ニ適合スル
 モノニテ且ツ舷燈ノ隔板ハ其位置正シク舷ニ裝置ス
 第十二 汽笛及ヒ號鐘ハ其音響ノ障礙ナキ場所ニ裝置
 シ且ツ號鐘ハ音響ノ高率モ以テ善ク其用ニ適スル
 第十三 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出スヘキ
 汚水唧筒一箇以上ヲ備ケル者

第三條 本船ノ汽機及ヒ所屬品ニ必ス左項ニ掲クル如ク

整備スヘキモノトス

第一 機關ハ諸部適合ノモノニテ十分ニ整頓セシモノ

第二 水線以下及ヒ其近傍ニ於テ裝置セシ船外ニ適ス

ル管ハ必ス嘴子或ハ辨ヲ備フルモノ

第三 罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ豫備品及ヒ附屬品ヲ

備フルモノ

第四 冷氣器ヲ設クル機關ハ正當ナル驗氣器ヲ備フル

モノ

第五 汽罐ハ豫メ水試驗ヲ經ルモノニテ平常用フル

蒸力ニ對シ新罐ハ其二倍ノ蒸力ヲ用フ古罐ハ其

一倍半ノ蒸力ヲ用フ以上ノ力ニ堪ルモノ

第六 安全弁ハ每罐火床面積ノ一平方尺毎ニ必ス二分

ノ一平方寸ノモノ二個ヲ備ヘ平常用フル蒸力ニ對ス

ル重量ヲ定メ内一個ハ外套ヲ備ヘ其外套ハ検査員ノ

立合ヲ得サレハ開閉シ能ハサル設ケヲ爲シタルモノ

第七 驗氣器驗鹽器驗溫器ハ時々試驗ヲ爲シ誤謬ナキ

モノ

第八 驗水器ハ每罐硝子製ノモノト二個以上ノ試嘴ト

兩様ヲ備ヘタルモノ

第九 汽罐二個以上ニシテ塞氣弁一個ヲ備ヘタルモノ

ハ其塞氣弁ヲシテ各罐ノ汽路ヲ閉塞セシムルニ適ス

ルモノ

第三章 検査ノ事

第四條 管内ノ港津ヲ定弊場トスル小形旅客汽船ハ毎年一回検査員ヲシテ船体汽機等ヲ検査セシムヘシ尤モ他管下ノヨリ航通スルモノハ其地ノ検査ヲ受クヘシ但都合ニ依リ他ノ府縣ニ於テ検査セシムルナアルヘシ

第五條 新造修繕及聯合府縣外ヨリ購入ノ汽船ハ其時々届出検査ヲ受クヘシ

第六條 但塗替其些少ノ修繕ハ此限ニ非ラズ聯合府縣外ヨリハ此ノ限臨時ニ乗船シ船体汽機等ノ整備セルモ否ヲ検査スルナアルヘシ但此場合ニ於テ検査員長官ヲ命令狀ヲ所持スルモ

第七條 検査ノ上船体汽機等ニ故障ナキモノハ第一雛形

検査以前ニ運航ニ堪ヘサルモノト見認ルキハ其運航ニ堪ヘキ時間ヲ検査證書ニ記載スヘシ但検査證書ハ下附毎ニ之ヲ引換ニルモノトス尤臨時

検査ニ限リ故障ナキ時ハ之ヲ下附セス第八條 検査證書ハ期限内船内若見易キ場所ニ掲示シ旅客等ヲ見聞ニ供スヘシ

第九條 小形旅客汽船ハ總テ検査済ノ證書ヲ所持スルニ非レバ運漕ノ營業ヲ許サス

第十條 定時臨時ノ検査ヲ問ハズ検査員ニ於テ船体汽機

等ニ故障アリト見認ルル本船ノ運航ヲ停止シ修繕若
クハ改造ヲ命スヘシ

第四章 乗客並物貨ノ積載

第十一條 船客ヲ乗スルハ必ス客室内ニ限ルヘシ尤在來

ノ客室トイヘテ檢査上不適當ト見認ルルハ取除ク或

ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ

但鹿兒島灣内航通ノ分ニ限リ客室外ト雖モ風波等ノ際

危險ナキ場所ト見認ルルハ船客ノ乗込ミヲ許スコト

アルベシ

第十二條 乗客ノ員數ハ一坪六尺ニ上等室四人中等室五

人下等室六人迄ヲ以テ制限トス

但鹿兒島灣内往復及ヒ特ニ甲乙ノ港津ヲ晝間六時以

三内ニ定時航通スル分ニ限リ一坪八人迄ニ及ボスヲ得

第十四條 乗客並ニ物貨ノ運賃ハ相當ノ額ヲ定メ豫メ届

出ヘシ

但其定額ヲ變更セシモ其都度届出ヘシ

第十五條 物貨ヲ積ムハ必ス艙内ニ限ルヘシ尤艙内ニ積

込ニ能ハサル物品及ヒ手荷物ハ此限ニ非ズ

但客室トイヘテ乗客ノ員數制限ニ滿タサルモ諸物

貨ヲ積込ミヲ爲スモ妨ナシ

第十六條 火藥硝石硫黃石炭油其他危害ノ物品ヲ積載ス

ルモ明治六年八月太政官第貳百九拾貳號布告ニ照準

取扱ヘシ

第十七條 船ノ脚入ハ必ス喫水線ヨリ超ユヘカラス

第十八條 船海ノ途中他船ト競争シ或ハ窮ニ安全辨ノ封緘ヲ開閉スル等ノ所爲決シテアルヘカラス

第十九條 船内ニ於テハ燈火ノ外一切火ヲ用フルヲ禁ス尤客室内ト雖モ午後第十時ヨリ日出マテ燈火ノ外吹煙其他火ヲ使用セシムヘカラス

但燈火ハ安全ニシテ危險ナキ製ノ器ヲ用ユヘシ

第二十條 船内ニ於テハ一切石炭油其他氣發性ノ油機ニ必用ナル(レレピソ)油ヲ用ユルヲ禁ス

如キハ此例ニラスヲ用ユルヲ禁ス

第二十一條 鹿島灣内航通ノ分ニ限リ汽笛ノ發聲ハ出港前三聲入港ノ際ハ一聲ニ限ルニシテ

第一雜形

第何拾何號

朱割印

檢査之證

船名	登簿噸數	公稱馬力	持主姓名	製造年月	修繕度		航路	事故	檢査セシ年月
					後及最	年及最			
					機	船			
					關	體			

檢査之上授與之

年月日

鹿兒島縣

印

檢査員何

某印

第二雜形 朱 用材檢堅曲尺壹尺五寸横四寸厚寸適宜

取締燒印

○ 何九何等室 乘客定員 何拾人

第廿二條 此規則ニ違背スルモノハ出港ヲ停止シ取罷ノ
上相償有處分ニ及フヘシ
第三條 中辦ハ辦ノ誤リ

第三章 租稅

○營業稅雜種稅規則

明治十三年六月十六日
甲第百十九號達

第一章 營業稅

第一條 會社ヲ三等ニ分チ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ
但會社トハ二人以上協力シテ某社某組ト稱シ資金ヲ
集メテ產業ヲ營ムモノヲ云

會社

一等 年稅金拾圓

資本金壹万圓以上會社

會社 二等 年税金五圓

資本金五千圓以上會社

三等 年税金三圓

一 資本金五千圓未滿會社

第二條 卸賣商ヲ七等ニ分チ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

但卸賣商トハ他ヨリ諸物品ヲ買入レ之ヲ商人ニ卸賣
スル者ヲ云

卸賣商

一等 年税金八圓

其服商 洋物商 輕節商 砂糖商 生魚商

二等 年税金七圓

生蠟商 鑄物商 材木商

三等 年税金六圓

陶器商 銅鉄商 網商

四等 年税金五圓

下駄商 太物商 金銀細工物商 時計寒暖計類商

疊表類商 籠甲水牛細工物商

紙商 金物商 錫鉛細工物商 蠟燭商 油商 竹商

植木盆栽商 醬油商 調味商 藥種商 石炭油商

酢商 馬具商 金銀箔商 角細工商 佛具商

五等 年税金四圓

樟腦商 生糸商 藍玉商 干鰯商 袋物商 刃物商

漆器商 魚油商 硝子商 綿商 絹糸商 建具商

乾魚商 小間物商 楮皮商 靴商 石灰商 石炭商
 蠟炭商 麴商 皮類商 乾物類商 唐糸商 玩弄物
 商 檀寶商 牛馬骨商 椎茸商 麻苧商 鷄卵商
 製茶商 漆商 漆器商 漆工商 漆商
 漆木六等 漆年税金三圓 漆商 漆商
 指物商 瓦商 木具類商 柳合利商 文具商 傘商
 菓子商 砥石商 粉商 粉商 粉商 粉商 粉商
 股引類商 竹細工商 元結髮附油商 飴商 麩商
 荒苧商 素麪類商 麩商 鳥獸肉商 棕櫚皮商
 苦商 漆商 漆商 漆商
 七等 年税金貳圓
 漬物商 漆物商 竹皮商 杉皮商 椎皮商 木灰商

柿澁商 針商 繪具印肉類商 線香商 桐油合羽商
 附木類商 算盤商 籠細工商 麻糸商 蓑笠類商
 輓轆商 團扇類商 桶類商 紅商 漆商 髹商 菓
 物商 艾商 糠商 鵝糞商 饅頭商 農具商 挽粉
 商 檢物商 書籍商 工器商 漆商 漆商
 第三條 仲買商ヲ七等ニ分テ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ
 但仲買商トハ諸商人ヨリ物品ヲ送リ來ル時々之ヲ賣捌
 キ或ハ賣買ノ紹介ヲ爲シ口錢又ハ手數料ヲ受クルモノ
 及ヒ他ヨリ物品ヲ買出シ之ヲ商人ニ轉賣スルモノヲ云
 仲買商

一等 年税金五圓五拾錢

吳服商 洋物商 輕節商 砂糖商 生魚商

生蠟商 鑄物商 材木商

陶器商 銅鉄商 菜種商 網商

四等 年税金三圓五拾錢

太物商人 金銀細工物商

時計寒暖計類商

三疊表類商 縫甲水牛細工物商

紙商 金物商 錫鉛細工物商

蠟燭商 油商 竹商

植木盆栽商 醬油商 味噌商

藥種商 石炭油商

酢商 馬具商 金銀箔商

角細工商 佛具商

五等 年税金貳圓五拾錢

樟腦商 生糸商 蓋玉商

干鰯商 袋物商 羽物商

漆器商 魚油商 硝子商

絹糸商 小間物商

楮皮商 靴商

石灰商 石炭商 綿商

建具商 乾魚商

蠣灰商 麴商 皮類商

乾物類商 唐糸商

玩弄物商 牛馬骨商

椎茸商 麻苧商

鷄卵商 製茶商

六等 年税金貳圓

指物商 瓦商 木具類商

柳合利商 文具商

傘商 菓子商

砥石商 葛粉商

葯麴玉商 荒物商

足袋商 股引類商

竹細工商 元結鬢附油商

飾商 荒苧商

素麪類商 棕梠皮商

柘木商 苧商 麴商

鳥獸肉商 七等 年税金壹圓五拾錢

漬物商 青物商 竹皮商 杉皮商 椎皮商 木灰商
 柿澁商 針商 繪具印肉類商 線香商 桐油合羽商
 附木類商 算盤商 籠細土商 麻糸商 蓑笠類商
 輓轆商 團扇類商 桶類商 紅商 漆商 髹商 菓
 物商 艾商 糠商 鵲糞商 農具商 檢物商 挽粉
 商 書籍商 水具商 燈具商 漆具商 漆商

第四條 小賣商ヲ七等ニ分テ各稅額ヲ定ム其目左ノ如シ
 但小賣商トハ諸物品ヲ自用人ヘ賣却スルモノヲ云

小賣商 一等年稅金三圓五拾錢 二等年稅金三圓
 吳服商 洋物商 輕節商 砂糖商 生魚商 草履商
 三等年稅金三圓

生蠟商 鑄物商 材木商 琴三味線遊藝道具商

三等 年稅金貳圓五拾錢

陶器商 銅鉄商 網商

下駄商 太物商 金銀細工物商 時計寒暖計類商

疊表類商 籠甲水牛細工物商 紙商 金物商 錫鉛

細工物商 蠟燭商 油商 竹商 植木盆栽商 醬油

商 味噌商 藥種商 石炭油商 酢商 馬具商 金

銀箔商 角細工商 佛具商

五等 年稅金壹圓 漆器商 魚油商 硝子商 綿商 絹糸商 建具商

樟腦商 生糸商 藍玉商 干鰯商 袋物商 刃物商

漆器商 魚油商 硝子商 綿商 絹糸商 建具商

乾魚商 石灰商 石炭商 靴商 小間物商 楮皮商
 蠣灰商 麴商 皮類商 乾物類商 唐糸商 玩弄物
 商 楡實商 半馬骨商 椎茸商 麻苧商 鷄卵商
 製茶商
 六等 年税金五拾錢
 指物商 瓦商 木具類商 柳合利商 文具商 傘商
 菓子商 砥石商 葛粉商 苧粉商 荒物商 足袋
 股引類商 竹細工商 元結鬘附油商 飴商 麩商
 荒苧商 素麩類商 蕤叭商 鳥獸肉商 棕櫚皮商
 苦商
 七等 年税金貳拾五錢
 漬物商 青物商 竹皮商 杉皮商 椎皮商 木灰商

柿澁商 針商 繪具印肉類商 線香商 桐油合羽商
 附木類商 算盤商 籠細工商 麻糸商 蓑笠類商
 輓轆商 團扇類商 桶類商 紅商 漆商 髡商 菓
 物商 艾商 練商 鵝糞商 饅頭商 農具商 豆腐
 商 凝海藻商 檢物商 草履草鞋商 附揚商 挑灯
 商 棕櫚皮商 墨商 挽粉商 苧粉商 書籍商

第五條 雜商ヲ三等ニ分テ各稅額ヲ定メ其目左ノ如シ
 但雜商トハ卸賣商トモ小賣商トモ名稱シカタキモノ
 ヲ云フ

雜商
 第一等 年税金三圓
 蒸氣器械米麥賃摺

一等年税金貳圓
 寫真(染物業)等 十三年(十月)甲 第二百號
 三等 年税金壹圓
 損料貸

第二章 雜種稅
 第六條 雜種稅其種類ニ依テ各個ニ稅額ヲ定ム其目左

一 製造所 年税金 資本金壹方圓以上拾圓五千圓以上五圓五千圓未滿三圓
 一 船五拾石未滿 將漁船及海川小廻船其國稅
 一 四步ヲ課ス 國稅
 一 但國稅免除ヲ船不除工商 國稅
 一 長六間 年税金貳拾六錢

一 長五間 年税金貳拾錢
 一 長四間 年税金拾四錢
 一 長三間未滿 年税金八錢
 一 車 國稅ノ四步ヲ課ス
 一 但國稅免除ノ車不除
 一 馬車二匹立 年税金壹圓貳拾錢
 一 馬車壹匹立 年税金八拾錢
 一 荷積馬車 年税金四拾錢
 一 人力貳人乘 年税金八拾錢
 一 人力壹人乘 年税金四拾錢
 一 牛車 年税金四拾錢
 一 荷積大七六八車 年税金四拾錢

荷積中小車

一諸市場演劇場諸興行諸遊覽所上少高百分ノ五ヲ課ス

一諸遊技場 年税金十圓

一玉突大豆楊弓射的吹矢 年税金六圓

一料理屋西洋料理 年税金六圓

一人寄席 年税金六圓

一質屋兩換屋店爲替 年税金五圓

一陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者 年税金三圓

一古着屋商 年税金貳圓五拾錢

一古金古道具商 年税金貳圓

一書畫骨董商 年税金貳圓

一旅籠屋 年税金貳圓

一餼屋 年税金三圓

一蕎麥屋 年税金五拾錢

一炸屋 年税金五拾錢

一煮賣屋 年税金五拾錢

一鳥獸肉料理屋 年税金五拾錢

一雜煮汁粉屋 年税金五拾錢

一料理仕出屋 年税金壹圓五拾錢

一湯屋 年税金壹圓

一雇入受宿 年税金壹圓

一理髮床 年税金七拾五錢

一遊藝師匠 年税金七圓

一但警者八除 年税金七圓

- 一 遊藝稼人 年税金拾圓
- 一 但滿十三歲以下ノ者ハ年税金五圓
- 一 相摸 年税金四圓
- 一 俳優 年税金拾貳圓
- 一 但滿拾三歲以下ノ者ハ年税金六圓
- 一 藝妓 月税金三圓
- 一 但滿拾三歲以下ノ者ハ金壹圓五拾錢
- 一 水車 年税金貳圓
- 一 但他人ノ穀物ヲ舂摺スルモノニ限リ全ク自用ノ爲
- 一 而巳ニ係ルモノハ課税セズ
- 一 乘馬 自用共壹頭ニ付 年税金五拾錢
- 一 屠畜 牛壹頭ニ付 税金拾錢
- 一 豚壹頭ニ付 税金拾錢

第七條 第一第二第三第四第五第六條ノ諸業中其何レヲ
 問ニテ之ヲ兼業スルモノハ各個ニ税額ヲ收ム尤同品
 其税額重キモノ一ヲ收ム

但第一第二第三第四第五條ノ一條中於テ税額高下
 別數個ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其最モ重キ者一個ニ課
 シ税額同等ノ者ハ其主トスル所ニ從フ

第八條 諸物品ヲ自カラ製作シ賣拂フ者ハ課税セズ
 但開店スルモノ及ヒ他人ヲ僱役シテ製作シ賣拂フモ
 課税ハ之ヲ課ス

第九條 他人ノ依頼ヲ受物品ヲ製作シ或モ僱役セラレテ
 工資ヲ得ル者ハ職工タルヲ以テ課税セズ

第十條 所有地ノ產物ニ製作ヲ加ヘテ賣拂フ者ハ課税セ

但開店ナル者之ヲ課ス

第十三條 營業稅ノ課目中ニ登記スル營業ヲ爲ス者ハ其

營業ノ種目並ニ住所姓名ヲ記載シタル看板ヲ添其地ノ

戸長役場ヘ申立其看板面ヘ該戸長役場ニ檢印ヲ受ケテ

之ヲ戶外ニ掲ク

但廢業スルハ該戸長役場ヘ其由ヲ申立看板面檢印

ヲ消除ヲ請フヘシ故ニ此手續ヲ行ハサルトキハ事實

廢業シタル者ト雖尙廢業セサル者ト看做シ課税ス

其廢業ノ由

第十三條 雜種稅ノ課目中ニ登記スル營業ヲナス者ハ所

轄郡役所ヘ出願以上免許鑑札ヲ受ケテ廢業スル者ハ

一七

其由ヲ届出免許鑑札ヲ返納スヘシ

但本條雜種稅ニ係リ別段免許ヲ受ケタル營業者ニ限

リ戶外ヘ看板ヲ掲クルト否トハ勝手タルヘク且假令

掲クルモ該看板ハ戸長役場ニ檢印ヲ受クルニ及ハス

第十三條 年稅ハ一ケ年課金ノ全額ヲ折半シ半額ニ其年

度 甲年ハ七月ヨリ十二月迄ノ前半季ノ七月三十一日限

乙年ハ一月ヨリ六月迄ノ後半季ノ七月三十一日限

徵收シ半額ハ其年度ノ一月三十一日限徵收スヘシ

但前後半季内ニ起業スル者ハ其月數ニ不拘半季分

ノ額ヲ徵收シ廢業スル者ハ第十九條ニ依ル

第十四條 月稅ハ其起業廢業トモ其月十五日前後ノ別

カ各其全額ヲ徵收スヘシ

第十五條 藝妓ハ營業ハ從來免許ノ地ニ限ルヘシ

第十六條 演劇場其他諸興行並ニ遊覽所ハ遲クトモ其開
場三日以前ニ豫メ紙數ヲ限リタル上リ高帳ヲ製シ所轄
郡役所ヘ差出シ檢印ヲ受ケ右帳簿ヘハ木戸錢中錢棧敷
代土間代等ノ加キ一切ノ上リ高ヲ登記シ興行日數滿限
ノ翌日ヨリ三日以内ニ必ス通計ヲ算シ其上リ高百分五
ノ税金ヲ添テ該町村戸長ヲ經テ郡役所ヘ差出スヘシ

第十七條 屠畜稅ハ每月末取纏メ收納スル者トス

第十八條 第十二條ノ營業者ヘ下ケ渡シタル免許鑑札若
シ改名代換轉居及ヒ水火盜難或ハ過誤等ニテ紛失セシ
キハ鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但鑑札ハ他人ニ貸與ヘ或ハ借請營業スルヲ許サス

第十九條 營業稅雜種稅ニ係ル新規營業ヲ爲ス者税金納

濟ノ後日數十五日以内ニ廢業シ其旨届出ルキハ税金返
附スヘシ

但十五日ヲ經過シテ届出ツル者及ヒ月稅ハ此限ニ非ス

第二十條 營業稅雜種稅中稅額ノ輕キモノヨリ重キニ轉
業スル者ニハ先稅額ニ照シテ相當ノ增稅ヲ納メシムヘ
シ又稅額ノ重キモノヨリ輕キニ轉業スル者先稅納濟ノ
日ヨリ日數十五日以内ニ係ルハ相當ノ稅額ヲ納メシメ
テ先稅額ヲ返附スヘシ

但十五日ヲ經過スルキハ先稅一切返附セサルヲ以後
稅上納ニ及ハス

◎地租割稅戶數割稅規則

明治十三年六月十七日
甲第百二十號達

第一章 地租割稅

第一條 地租割税ハ毎年地課ノ税率ヲ定メ之ヲ賦課スヘシ

第二條 縣廳ニ於テハ縣會ノ決議ヲ取り定メタル課税ノ

税率ニ依リ更ニ各郡ノ課額ヲ定メテ郡役所ニ達シ郡長

ハ其税率ヲ以各町村ノ課額ヲ定メ之ヲ戶長ニ達スヘシ

第三條 戶長ハ徵收期月其税金ヲ取纏メ之ヲ郡役所ニ納

ムヘシ

第四條 地租割税徵收期限ヲ分テ二期トナス其第一期ヲ

前年度ノ六月トシ第二期ヲ該年度ノ十二月トシ每期其

税金ノ半額ヲ徵收スヘシ

第二章 戶數割税

第五條 戶數割税ハ毎年一月一日現在ノ戶數ニ依リ其稅

率ヲ定メ之ヲ賦課スヘシ

第六條 縣廳ニ於テハ縣會ノ決議ヲ取り定メタル戶ノ稅

率ニ依リ更ニ各郡ノ課額ヲ定メテ郡役所ニ達シ郡長ハ

其稅率ヲ以各町村ノ課額ヲ定メ之ヲ戶長ニ達スヘシ

第七條 戶長ハ徵收期月其税金ヲ取纏メ之ヲ郡役所ニ納

ムヘシ

但現場課出ノ時ニ當リ戶數ノ増減アルキハ其現戶數

ニ依テ徵收スヘシ尤其事由ハ郡長へ届出ツヘシ

第八條 戶數割税徵收期限ハ第四條ニ同シ

第九條 戶數割税ハ家屋ヲ所有スル者ノ限ラス凡ソ

一戶主タルモノハ借家同居人ノ如キモ一般賦課スルモ

第十條 家族ニシテ戶主ト別居ノ者ハ戶數割税ヲ賦課ス

第十一條 他府縣ヨリ全戸寄留ノ者ハ本縣在籍ノ者ト同
 第十二條 本縣在籍ニシテ他府縣管内ヘ全戸寄留ノ者ハ
 第十三條 本縣在籍ノ戸主一人他府縣ヘ寄留スル者ハ其
 第十四條 本縣内甲郡ヨリ乙郡ヘ全戸寄留ノ者モ亦本條
 第十五條 本縣内甲郡ノ戸主一人乙郡ヘ寄留スル者ハ其
 第十六條 同郡内甲村ニ於テ賦課スルモノモ亦本

第十六條 鳏寡孤獨赤貧等ニシテ課出ニ堪エ難キ者ノ爲
 第十七條 其者ノ出スヘキ分ヲ同町村内他ノ人民ニ於テ負擔ス
 第十八條 該町村ノ協議ニ任カス尤之レカ爲該町村
 第十九條 課額ヲ減スルヲ得ス
 第二十條 甲第二百廿二號

酒造營業人心得書本年第四十號公布ニ據リ別冊之通改正
 候條此旨布達候事

鹿兒島縣令渡邊千秋代理
 明治十三年十二月廿七日 鹿兒島縣少書記官 上村 行 行

凡酒類ヲ製造シテ營業セント欲スルモノハ明治十三年太
 政官第四拾號公布ヲ遵守スヘキハ勿論ナリト雖モ尙細目

ヲ示ス左ノ如シ
 第一條
 酒造營業ナスモノハ毎年九月三十日迄ニ第壹號書式ニ倣
 ヒ翌期ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
 但酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種目ニ拘ハラズ總テ一
 區域内ヲ以テ一箇所ト心得
 第二條
 免許鑑札ハ其年一期中有効ノモノトス故ニ引續免許ヲ請
 フモノハ毎年九月三十日迄ニ戶長役場ヲ經由シ郡役所へ
 差出シ免許証印ヲ受クヘシ
 第三條
 免許税ハ税則八條ノ通心得ヘシ

第四條

但一期中造酒見込石高届ニ第五條ノ手續ニ據ルヘシ
 税則第廿七條酒造ニ屬スル一區域内(家屋倉庫)其實況詳細
 繪圖面ニ製シ且諸器械ハ第三號書式ニ倣ヒ最寄出張酒造
 検査員へ差出スヘシ

第五條

但本條取調書差出後増減變換アルハ其時々更ニ調
 製引換ヲ請フヘシ
 免許ヲ受タル者ハ税則第廿六條ニ據リ一期中造酒見込ノ
 種目(清酒焼酎白酒)石數第三號書式ニ倣ヒ最寄出張酒造檢
 査員へ差出スヘシ

但酒類製造方法ハ種目毎ニ第四號書式ニ倣ヒ本條同時

三差出スヘシ
第六條

最前届出タル酒造見込石高増減スル并ハ第五號書式ニ依
最寄出張酒造検査員ヘ差出スヘシ
第七條

税則第廿八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ第七號雛形ニ依ヒ
調製第五條ニ據リ届出タル一期中造石見込高ヲ記載スヘ
但見込石數増減アルキハ其時左札紙ヲ貼附シ之ヲ更訂
第八條

酒造期節中營業者幼年又ハ疾病若シテ事故ヲツテ佗出

スルキハ營業熟知ノ代理人ヲ定メ氏名ヲ最寄出張酒造檢
査員ヘ届出ヘシ

第九條
廢業ノ者ハ第八號書式ニ依ヒ届出テ節免許釐札返納スヘ
但最寄出張酒造検査員ヘ書面ヲ以其旨届出ヘシ
第十條

税則第拾八條造石免除ノ酒類ト雖モ一期製造種目等第五
條ノ手續ヲナスヘシ

第十條
税則第廿條酒造桶瓶ハ勿論其他粕桶水桶米浸漬桶等ニ至
ル迄検査済ノ上ハ調査簿ヲ下附シ故ニ通常酒造検査ノ節

下雖能照據ノ爲メ該簿差出スルシテ... 但新調輪換破解及賣買(賣買人双)等之節最寄出張酒造
検査員へ届出検査ヲ受クヘシ

第拾貳條

酒類桶容量調査算則左ノ如シ

桶調査法

口徑(口頭)ノ寸(胴徑)ノ中央(底徑)ノ板面(口頭)ノ軌レモ内測リ
ニテ縦横ヲ⊕圖ノ如ク度リ此縦横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除
キ以テ定ム深サヲ其桶ノ前(呑)ノ適(後)ノ軌レモ底板
リ口徑(口頭)ノ寸(迄)ノ間ヲ丈量シ其前後ノ尺度ヲ合シ
之ヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ
但尺度ノ軌レモ曲尺ヲ用ヒ分數ニ止ム

算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乗シ此三個ヲ和シ之レヲ三ニテ除
キ以テ實トズ之レニ深サヲ乘シ圓積率(五七四八)ヲ乘シ而シテ
枘法(六四八)ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル
但石數(合位)ニ止メ勺(已)下切捨ラズヘシ

第十三條

造石検査ヲ受ヘキ酒類ハ桶瓶等口頭ヨリ半寸減測面
記載ノ石數ヲ入レ置クヘシ

但端石ノ酒類ハ現在入實ノ石數ヲ申立ベシ
第十四條

稅則第貳拾五條造酒摺リ蒸溜器械使用セント欲スルハ
豫テ附置タル封印解披ハ最寄出張酒造検査員へ願出ヘシ

但器械封緘並解披ノ節ハ請書捺印スヘシ
第十五條 造酒器械封印過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルハ其事由ヲ
詳記シ書面ヲ以直ニ最寄出張酒造検査員ヘ届出ヘシ

第十六條

醸造仕込濟ノ日第九號書式ニ倣ヒ速ニ最寄出張酒造檢
査員ヘ届出ヘシ

但検査員出張ノ上ハ検査証下附スルモノト雖モ追テ釀

熟ノ日ニ至リ再ヒ醜石數検査ヲ受ルノ後(蒸溜揚)スルモ

カト心得ヘシ

第十七條 酒類(蒸溜揚)濟ノ上ハ直ニ第拾號書式ニ倣ヒ最寄出張酒造

検査員ヘ届出ヘシ

検査員ヘ届出ヘシ

但造酒検査簿ハ甲乙二帳ヲ製シ乙帳ハ營業者ニ下ケ渡

シ尤検査ノ都度月日石數等ヲ記入シ調印スルモノト心

得ヘシ

第十八條

自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ宛ツル酒類ヲ製造スルモノ

ハ第五條及第拾三條ヨリ第拾六條マテノ手續ニ據ルヘシ

第十九條

税則第拾六條酒類並醜醜共非常ノ損害ニ罹リタルハ時

日ヲ選サズ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ最寄出張酒造

検査員ヘ届出検査ヲ受クヘシ

但廢敗酒類等ヲ變製セント欲スルモノハ其種目石數ヲ

第貳拾條 酒類ノ變製ニ係ル者ハ其變製ノ酒類ニ就テ

稅則第拾五條檢査濟ノ酒類ヲ變製(稅則第貳條ノ酒類ヲ製スル)スルキハ該條ニ據ルベシト雖モ該條中ノ變製(酒類ノ變製ニ係ル者)ニ係ルキハ其變製シタル酒類石數ニ就テ納稅スルモノ心得ベシ

第貳拾壹條

檢査濟ノ酒類並買入酒等ヲ粕漉ニスルキハ酒類ノ石數ト粕ノ量目ヲ詳記シタル書面ヲ以着手已前最寄出張酒造檢査員へ届出檢査ヲ受ルベシ

酒類ノ火入滓引等ハ造石檢査ノ後之ヲナスヘシ

第貳拾三條

稅則第拾八條造石免除ノ酒類ト雖モ造酒ノ節ハ最寄出張酒造檢査員へ届出檢査受クヘシ

第貳拾四條

造石稅納期前免許鑑札賣與讓與又ハ廢業スルモノハ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スルモ其節ノ未製成ノ酒類(酒醗ヲ)ヲ營業者ニ非ラサル者へ賣渡スルキハ其酒類ニ係ル造石稅ハ本條ノ通心得ヘシ且營業者ハ賣渡スルモノハ双方(買渡人)運署ヲ書面ヲ以最寄出張酒造檢査員へ届出シ

第貳拾五條

營業中都合ニ據テ未製成ノ酒類(酒酏ヲ)ヲ販賣スルモノハ
其旨最寄出張酒造検査員へ届出検査受クヘシ

但其石數ニ係ル課税(八税則)第貳條ノ類別ニ據テ其

スハ其酒類ノ製造者ノ責任ニ歸スルモノトシテ其

第貳拾六條(酒類ノ製造者ノ責任)ニ據テ其

税則第拾九條ニ基キ左ニ掲グル處ニ諸帳簿ヲ製シ詳密記

載シ造酒検査ノ際之ヲ差出スヘシ

但仕込帳ハ第十一號書式ニ倣ヒ其他ハ脱漏ナク詳記ス

酒造米買入帳

酒造米買入帳ニ掲グル搗米通帳

杜氏仕込帳

酒造米仕拂帳

酒粕目方扣帳

酒粕糖賣拂帳

酒造諸器械賣買扣帳

酒造諸器械賣買扣帳

酒造諸器械賣買扣帳

他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルモノハ其石高及代價等ヲ詳記

シテ其仕切書又ハ送り狀等ヲ取置保存ス

第貳拾八條

派出官検査ノ節

派出官検査ノ節

放チ土藏物置等戸前ヲ開キ置クヘシ

第貳拾九條

酒類釀造蒸溜人及營業人員及釀造蒸溜石高ノ多寡或ハ主

地公便否ヲ計リ壹組壹人若シク公或人ノ惣代ヲ選定シ組合營業人連署ヲ以其宿所氏名ヲ届出スヘシ

第三拾條

惣代人ハ一期中(甲年十月ヨリ乙年九月マテ)下定メ交代スルモトス然レハ衆議ニヨリテハ尙幾期ヲ重ヌルモ妨ケナシトス

但事故アツテ欠員スルモ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ

第三拾壹條

釀造蒸溜營業ニ係ル諸申牒ハ其組合惣代へ差出惣代人之ヲ酒造検査員或ハ該戸長へ進達スルモノトス然レモ故ナク其申達ヲ拒ミ營業人ノ自由ヲ妨ケルヲ得ズ

第三拾貳條

惣代人ハ總テ營業ニ關スル規則及布達等疑問ニ涉ル廉々

大ナルハ伺出小ナルハ主任官員ノ説明ヲ受ケ之ヲ組合營業人へ懇諭シ必ス犯則ノモノナカラシムルヲ要スヘシ

第三拾三條

惣代人ハ組合ニ係ル諸經費ハ細カニ之ヲ簿記シ置キ組合營業人へ明告シ至當ニ賦課シ勉テ冗費ヲ省クヘシ

但經費ハ組合中篤ニ協議スヘシ

第三拾四條

酒造營業人諸般便宜ヲ爲メ組合區域ハ實地ニ着キ酒造検査員ノ見込ト營業者ノ申立トニ據リ之ヲ定ムヘシ

第三拾五條

無免許ニシテ壹ケ年壹石以上ノ酒類ヲ製造スルモノ及酒造稅則ヲ違犯スルモノヲ察知シ若シテ見聞キスルモハ

最寄警察官又ハ酒造検査員へ其旨密告ス不令知シテ私儀
第壹號書式

酒造免許願

酒造何年度一期中(營業)自家飲料用爲メ酒類壹石以上製造

仕度候間免許鑑札御下渡被成下度然ル上ハ御規則通堅相
守可申候因テ此段奉願候也

年月日 何國何郡何村何番戸

前書之通相違無之候也

右戸長 誰印 誰合

縣令宛

第貳號雛形

(用紙美濃紙)

酒造諸器械調書

何國何郡何町村何番地

何之誰

酒造諸器械調

何個

一層枰 (酒槽ノ上ニカ)

何個

一男柱 何本

一締木 何本

一掛袋 何個

- 一 垂リ瓶 (酒槽ニヨリ垂リ) 何 個
- 一 蒸溜器 (ツグロルハ) 幾 組
- 一 礎^{イソ} (白用ニ製スヘシ) 幾 組
- 一 甑 (白用ニ製スヘシ) 何 個
- 一 暖氣樽 何 個
- 一 蒸釜 何 個
- 一 半切桶 何 個
- 一 試シ桶 (通俗タメ桶ト云) 何 個
- 一 桃桶 (モロ用ヲ袋ヘ) 何 個
- 一 擔桶 何 個
- 一 柄杓 何 個
- 一 麴蓋 何 枚

(右ノ外酒造ニ關スル器械ハ悉皆記載スヘシ)
 酒造ニ屬スル諸器械即今所持之分前記之通相違無之候尤
 以後増減有之節ハ其時々御届可申上候也

何國何郡何町村何番地
 酒造營業人

明治何年何月何日
 何之誰印

右戶長

何之誰印

縣令宛

第三號書式

何酒釀造見込石高御届
 燒酎蒸溜

一支米何程

此百米何程

此何酒何程

白米何程

此酒類何程

但何石何斗造 幾仕舞

白米何程

但何石何斗造 幾仕舞

此酒類何程

(酒或ハ雜穀葉實ヲ以釀造スルモノハ其石)

右以酒造何年度一期中 釀造見込石數前書之通候間此段御

届申上候也

何國何郡何町何村何番戶

前書之通相違無之候也

其年明石...

何之誰

第四號書式

何酒蒸釀造方法御届書

何國何郡何町何村何番戶

(酒造營業人)(酒造人)

何之誰長次男

杜氏...

何之誰

(早造)

(寒造)

白米何程仕舞

何之誰

添配合米何程

但但味麴米何程

一何々何程 (酒粕唐半等ハ貫) 目ヲ記スヘシ

此何酒何程

右ハ何年度 釀造 増石仕度ニ付此段御届申上候也

何國何郡何町何番戸 (酒造營業人)

前書之通相違無之候也

何之 誰印

右ハ何年度 釀造 増石仕度ニ付此段御届申上候也

何國何郡何町何番戸 (酒造營業人)

右戸長

何之 誰印

第六號書式 此何酒何程

見込届何々候程之内

此何酒何程

(酒粕唐半等ハ貫) 目ヲ記スヘシ

此何酒何程

(内譯其他第三號書式ニ倣イテ、釀造ニ付、

右ハ何年度造石見込石數ノ内前書之通(米買入都合ハ)減

石仕度候間此段御届申上候也

何國何郡何町何番戸 (酒造營業人)

何之 誰印

前書之通相違無之候也

右戸長

何之 誰印

縣令宛

第七號雛形

免許鑑札番號

第何號

清酒何石造
燒酎何石造

何府郡町番地
何縣區村

何某

寸法 豎巾曲尺三尺 横巾製酒種類ノ數ニ依リ適

宜定ムヘシ

第八號書式

酒造廢業御届

第何號(免許鑑札番號)ヲ記ス

一酒造免許鑑札

右ハ今般廢業仕候ニ付御鑑札相副へ此段御届申上候也

何國何郡何町何村何番戶

年月日

何之誰印

前書之通相違無之候也

右戶長

何之誰印

縣令宛

第九號書式

何酒醪御檢査願

第何號(檢査証順番號)ヲ記スヘシ

一支米何程

第何號瓶壹本

一 此白米何程

(酒粕唐辛等ハ目方ヲ記スヘシ)

右本日醸造仕來ル何日ヨリ蒸搾立仕度候間御檢査被成下
度此段奉願候也

何國何郡何町村何番戶

年月日

何 之 誰 印

鹿兒島縣

何町村出張酒造檢査員

御 中

第拾號書式

何酒御檢査願

第何號(檢査証番號)

一 燒酎何程

此元何々何程 (玄米白米其他仕)

右ハ何月何日蒸搾上溜三付御檢査被成下度此段奉願候也

何國何郡何村町何番戶

年月日

何 之 誰 印

鹿兒島縣

何町村出張酒造檢査員

御 中

第拾號書式

何酒醸造仕込帳

第 壹 號

一 玄米何程

一 此白米何程
 内 麴米何程
 合 水何程

年月日

此譯
 年 月 日
 配米何程
 水何程

添米何程
 水何程

年月日

中米何程
 水何程

年月日

溜米何程
 水何程

第三號

一同上

以下倣之

○造酒營業者ニ非サル者一期中酒類壹石以下製造人

心得

明治十三年十二月廿七日
 甲第二百廿三號達

第壹條

稅則附則ニ據リ酒類一ケ年壹石以上ヲ製造スルモノハ免
 許鑑札願出造酒檢査ヲ受ケ總テ本縣十三年甲第二百廿二
 號酒造營業人心得書ニ據ルヘシ

第貳條

營業者ニ非スシテ一ケ年(甲)年九月三十日ヨリ(乙)酒類壹石以
 下ヲ製造スルモノハ一期中造酒見込種目(清酒、白酒、燒酎、濁酒)ノ石數

第一號書式ニ倣ヒ最寄出張酒造検査員ニ差出スヘシ
 第三條 一期中酒類壹石以下製造スルモノハ主任官便宜ニ據リ臨時出張調査スルヲアルヘシ
 第五條 前條々進犯スルモノハ相當處分ニ及スヘシ
 第壹號

造酒石高見込御届

元 玄白米雜 何程
 穀菓實等 何程
 一何酒何程
 一右者酒造何年度一期中自家飲料ノ爲メ醸造見込石高前
 後書之通候間此段御届申上候也

何國何郡何町村何番戶
 何 之 誰 印

前書之通相違無之候也
 右 戶 長

縣令宛

第貳號

何酒(蒸溜)(醸造)御届

一 元 玄白米雜 何程
 穀菓實等 何程
 此 何 酒 凡 何 程
 右本日醸造仕來ル何日 蒸溜 仕候間此段御届申上候
 也

何國何郡何町村何番戶

年月日
前書之通相違無之候也

右戶長

誰印

縣令宛

第四章 地理

甲第百廿八號

舊藩々於テ下渡置候山鑑札相廢止自用薪木拂下規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治十二年八月七日 鹿兒島縣令岩村通俊

自用薪木拂下規則

第一條

從來鑑札ヲ請ケ税金ヲ稱シニケ年若干ノ料金相納官林ニ於テ自用薪木伐採スルヲ廢止シ明治十三年一月ヨリ左ノ條々ニ因リ薪用木拂下可シ

但從前下ケ渡シアル鑑札ハ本年十二月三十一日限戶長役場へ取纏メ郡役所ヲ經由シテ縣廳へ返納ス可シ

第二條

舊藩中薪札ヲ請ケ官林ニ於テ自用薪木ヲ採取セシ村々ハ明治十一年三月甲第三十貳號布達ニ照準シ字反別木數等詳記シ尙從前伐採致シ來ル官林圖面ヲ製シ翌年該年伐採スヘキ區畫ヲ記入願書ニ相副へ前年八月三十一日限リ差出

スヘシ
 但本年之儀ハ従前下渡アル鑑札ノ寫ヲモ相添往復ヲ除
 第十日間ニ申出ルキトス
 第三條
 第二條ノ手續ヲ以テ願出ルキハ官員派遣實地檢査ノ上差
 支カキモハ其村ノ戸數ニ應シ該年即チノ需用ヲ概算願
 出ノ木數ヲ照査シ不相當カキ者ハ其地相當ノ代價ヲ調査
 其筋ハ稟議ノ上拂下ヘシ

但従前伐採致シ來ル官林ト雖モ水源涵養土砂扞止等ノ
 禁伐林或ハ用材山等ハ拂下サルヘシ
 第四條

第三條ノ通概算ヲ以テ立木拂下ルニ付テハ若シ該年中薪
 不足ヲ生ズルハ前條々ニ照シ其情狀ヲ具シ更ニ拂下ヲ
 請ヘシ

第五條
 此規則ニ據リ拂下タル樹木ハ固ヨリ該村自用ノ薪ニ限リ
 ヲ以テ萬一樹木ノ儘又ハ該木ヲ以テ物品ヲ製作シ他人ニ
 賣渡スモノハ相當ノ處分ニ及フヘシ

第六條
 鋤柄其他農業上必需ノタメ第一條之通従前鑑札ヲ請ケ一
 ケ年若干ノ料金ト云フ税金ヲ納メ官林立木ヲ伐採致シ來ル
 モ亦前條々ニ比準シ拂下ケル處分ヲナスモノトス
 但従前下渡アル鑑札ハ第一條但書ノ通相心得返納ス

甲第六號

民有山林伐採候節、左之通可相心得此旨布達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年一月廿七日 鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

第二條 凡山林伐採候節、民有山林致伐採候節ハ必ス戸長ノ檢査ヲ經テ可致伐採候

事

第二條 凡山林伐採候節、民有山林致伐採候節ハ必ス戸長ノ檢査ヲ經テ可致伐採候

事

衆人ニ於テ水源涵養土砂并止風潮除魚附場名所醫跡等見

認候場所及非常ノ良材等伐採セントスルハ其旨區戸長

ヲ經テ縣へ申出何分ノ指揮ヲ受ク可ク候事

第三條 凡山林伐採候節、民有山林致伐採候節ハ必ス戸長ノ檢査ヲ經テ可致伐採候

事

戸長驗査シ上良材ハ可成丈保存可爲致候事

第四條

雜木薪炭林ハ其大小ニ應シ豫メ區畫ヲ定メ置十七八年

或十五六年或五六ヶ年毎ニ輪伐可致候事

第五條

凡山林伐採候節、民有山林致伐採候節ハ必ス戸長ノ檢査ヲ經テ可致伐採候

事

甲第三百三十一號

本年一月甲第六號布達民有山林伐採心得第五條左ノ通追加

候條此旨布達候事

明治十二年八月十三日 鹿兒島縣令岩村通俊

第五條

民有宅地ニ有之楠不伐採スルト雖第二條第三條ニ照據ス

可奉事十二

甲第百八十五號

地所拂下等出願ノ節取調廉書客年三月甲第三拾二號ヲ以テ

及布達置候處詮議ノ次第有之右布達取消候條更ニ地所並

山林立木拂下出願取調廉書別紙之通可相心得此旨布達候

事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年十二月三日 鹿兒島縣大書官渡邊千秋

何國何郡何村

字何官有地

反別 敷 坪數

需用ノ理由詳細記載繪圖面相副願出ヘシ

圖面ニ成丈美濃紙壹枚ニ認テ郡町村字及四至ノ地形ヲ

圖上ニ記載シ出願ノ場所采欄ヲ以テ分書シ采欄ニ間敷

ヲ記シ欄内ニ反別又ハ坪數ヲ明記ス

何國何郡何村

字何官林又ハ官地

樹種數品有之モノ本行ニ

何本 樹種數品有之モノ本行ニ

神社修繕或ハ薪炭用等共事故詳細記載ス

○鹿兒島港共同物揚場規則 明治十一年四月廿三日 甲第五十六號達

第二條 共同物揚場トシテ船舶ノ出入スル水部ニ沿テタル

官有岸地ノ稱呼ニシテ諸物品船積及ヒ陸揚ト等ノ爲メ

官民共用スル地所ヲ云々
第二條 共同物揚場ハ官民一般共用スルヲ得ルト雖モ非常ノ節ハ官ニ於テ之ヲ專用スルコトアルヘシ

第三條 諸物品舟積及陸揚ケ等ヲ爲メ一時其物品ヲ其地ニ停置スルヲ得ヘシト雖モ一日タリモ宿留セシムルヲ得サルモノトス

但シ止ムヲ得サルモノハ戸長事務所ニ於テ其事實ヲ承認シ日數五日迄ノ宿留ヲ許ルコトアル可シ

第四條 共同物揚場區域ニハ其共同物揚場タル標示杭ヲ建ツヘシ故ニ其區域外ニ在テハ民有人確証アル地所ヲ除クノ外私ニ陸揚船積等ヲナスコトヲ得ス
第五條 共同物揚場ハ一般同等使用スルヲ得ルト雖モ輕

少ナル物ハ重大ナル物ニ便宜ヲ與ヘ重大ナルモノハ輕少ナル物ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條 陸揚舟積ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス尤不得已夜間ニ至ルキハ標燈ヲ掲ク

第七條 共同物揚場ニ於テ諸工事不相成ハ勿論同所使用ノ爲該地ヲ毀損及塵芥汚穢物散布シタル時ハ其使用セシ者ヨリ修理或ハ掃除スルモノトス

甲第二號
大隅國贈啖郡福山郷浦町岸へ共同物揚場取設ケ候條規則之儀ハ昨十一年四月甲第五拾六號布達之通可相心得此旨布達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年一月十三日 鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

第五章 學務

○學務委員職務心得概目

明治十三年三月十七日
甲第五十三號達

學務委員ハ縣令ノ監督ニ屬シ教育令ノ旨趣ヲ奉シ町

村內學校事務ヲ幹理ス其職務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村內公立小學ヲ設置スル事
- 一 町村內學齡兒童ノ就學ヲ勸ムル事
- 一 公立學校設置或ハ廢止ノ事ヲ申請スル事
- 一 私立學校設置或ハ廢止ノ開申書ニ連印スル事
- 一 公立學校諸規則制定或ハ改定ノ事ヲ申請スル事
- 一 私立學校教則ノ開申書ニ連印スル事

一 公立學校教員役員進退等ノ事ヲ郡長ヘ申立ッル事

一 私立學校ノ其町村人民ノ公益タルモノアレハ之ヲ具申

スル事

一 學事ニ付奇特ノ者アレハ之ヲ具申スル事

一 毎年縣令ノ指揮ニ依リ町村內學事ノ實狀ヲ記載シテ開

申スル事

一 職務ニ付キテノ事件文書ハ戶長ト協議連印スヘシ

一 凡縣令ニ申稟スル事ハ都テ郡長ヲ經由スヘシ

一 町村內ノ學務舉ヲサレハ其責ニ任スヘシ

○鹿兒島中學生徒東京留學規則

明治十三年十一月十七日
甲第二百九號達

第一條

東京へ留學セシムル生徒ハ該地師範學校ニ於テ中學師範

學科ヲ學ハシメ卒業ハ上縣内中學校ノ教員タラシム
第二條

生徒ヲ派遣スルハ東京師範學校生徒募集ノ期限前ニシテ
入學ノ期ニ至リ試験ヲ受ケシム若シ及第セサルキハ直チ
ニ書留郵便ヲ以テ其旨ヲ申報シ進退ノ指揮ヲ待ツヘシ

第三條

入學ノ期ニ至リ病氣等ニテ試験ヲ受ケ得サルモノハ第二
條ノ通タルヘシ

第四條

生徒ヲ派遣シ又ハ歸縣ヲ命スルトハ相當ノ旅費ヲ給ス

第五條

歸縣ヲ命セラル、時自費ヲ以テ滞留セント願フ者ハ其情

實ニ依リ之ヲ許ス

第六條

學資ハ一ヶ月金八圓ヲ給ス

第七條

學資ハ入學ノ月迄給與スルモノトス

第八條

入學中定期及大試験ヲ受ケ候節ハ時々其景狀ヲ申報スヘ

第九條

校則ヲ犯ス等ニ由テ退學セララル、者或ハ願ニ依リ退學ス
ル者ハ縣ヨリ給與セラレシ學資金一時ニ辨償スルモノトス
但病氣等ニテ不得已情實アル者ハ此限ニ非ス

第十條

第九條ノ者學資辨償ノ上ハ進退其望ニ任ス

第十一條

卒業ノ上ハ相當ノ給料ヲ以テ縣内中學教員一ケ年間務ムルモノトス

但都合ニヨリ小學教員トナルモ妨ケナシ

第十二條

奉職年期中ハ他ニ出身スルヲ許サス

第十三條

留學ヲ命セラルハキハ左ノ證書ヲ出サシム

第十四條

此規則改正ノ時ハ其規則ニ從フモノトス

証

用紙ハ証券罫紙

私儀

今般東京留學トシテ御差出ニ付テハ御規則ノ趣堅ク相守リ卒業ノ上ハ御命令ニ從ヒ本縣内中學教員相勤可申且第九條ノ場合ニ於テ退學スルカ或ハ御規則ニ違背致候節ハ御給與ノ學資金一時償還可仕候依テ證書如件

鹿兒島縣何郡町(村)

何番地

年月日

姓名印

右何ノ誰ヨリ差出候書面ノ儀ハ私保證致シ若違背ノ廉等有之節ハ諸事私引受可申依テ保證狀差出候也

鹿兒島何郡何町(村)

何番地

証人 父兄 或ハ

姓 名 印

鹿兒島中學

御中

甲第百八十號

鹿兒島師範學校鹿兒島女子師範學校同附屬幼稚園鹿兒島中學諸規則別冊之通相定候條爲心得此旨布達候事

鹿兒島縣令岩村通俊代理

明治十二年十一月廿七日

鹿兒島縣大書記官渡邊千秋

○鹿兒島師範學校規則

明治十二年十一月廿七日
甲第百八十號達

第一條 告示

本校ハ縣内小學ノ師範タルヘキ生徒ヲ陶冶スル所ナリ入學ノ生員宜シク此意ヲ體シ己ヲ虛クシ益ヲ求メ其學業ヲ勉勵琢磨スヘキハ勿論其人亦寛容正直ヲ旨トシ其性質ヲ涵養セサル可ケンヤ苟モ身ヲ委ネテ此校ニ入ルモノ或ハ此旨ニ悖リ其業ヲ惰リ其身ノ行ヲ失ハ、上國家愛育ノ恩旨ニ違ヒ下己ノ初心ニ背キ明時ノ廢物トナラン庶幾クハ生員切瑳琢磨成業ヲ期シ後日必ス師位ニ立チテ本校ノ風教ヲ四方ニ播サンコトヲ此旨預メ告示スルモノナリ

第二章 通則

第一條

本校ハ縣内小學ノ教員タルヘキモノヲ養成スル所ニシテ年齡大約十八年以上三十五年以下行狀端正體質壯健已ニ

種痘或ハ天然痘ヲ爲シ且普通ノ書ヲ講讀シ及畧算術ヲ能
スル者ニアラサレハ入學ヲ許サス

第二條

生徒募集ハ期ニ先チ縣廳布達又ハ學務課報告ヲ以テ告示
スヘシ

第三條

入學ヲ願フ者ハ第一號第二號ノ書付ヲ出スヘシ

第四條

入學試験ヲ受ケ合格ノ者ハ第三號ノ證書ヲ出スヘシ

第五條

生徒入校ノ上ハ本校内ニ寄宿ヲ許ス

第六條

病氣等ニテ致場ニ出サルキハ起業十分前ニ其事由ヲ詳細
記載シタル書面ヲ以テ舎長（通學生徒ハ本校へ）届出ツヘシ

但欠課三日以上ニ及フキハ保証人ヨリ（病氣ナレハ醫証

ヲ添へ）届出ツヘシ

第七條

修業中ハ至重ノ病ニ罹ル等ニ非サレハ猥リニ半途退學ヲ
許サス

但不都合ヲ醸シ退學ヲ命スルモノハ此限ニアラス

第八條

每期ノ終生徒學業ノ進否ヲ檢シ合格ノ者ニハ第四號或ハ

第五號ノ證書ヲ附與ス（書式試験規

第九條

學期ハ二月十五日ヨリ七月十五日迄ヲ一期(前)トシ九月一日ヨリ二月十四日迄ヲ一期(後)トス

第十條

年中休日左ノ如シ

- 一日曜日
- 一土曜日午後
- 一夏期七月十六日ヨリ八月三十一日迄
- 一冬期十二月廿六日ヨリ一月五日迄
- 一孝明天皇祭
- 一紀元節
- 一春季皇靈祭
- 一神武天皇祭
- 一神嘗祭
- 一秋季皇靈祭
- 一天長節
- 一新嘗祭

(第一號)

入學願

私儀今般御校へ入學志願ニ付御許容被成下度也

何府 何縣 何郡 何町 何番地

族籍誰子弟等

但他管下ノ者ハ寄留地ヲ詳細併セ

記スヘシ

明治年月日

姓名 印

年 齡

鹿兒島師範學校

御中

(第二號)

履歷書

一何年何月ヨリ何年何月迄何地何某ニ從ヒ何學科修業

一何年何月ヨリ何年何月迄何々奉職
一何年何月何々ノ事ニ付何々賞罰

明治年月日

姓名印

鹿兒島師範學校

御中

(第三號)

証書

私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ修業中御校諸規則堅
ク相守リ聊違背致ス間敷候依テ證書差出候也

何府下何國何郡何村何番地

族籍誰子弟等

但他管下ノ者ハ寄留地ヲ詳細併

七証スヘシ

姓名印

右本人ヨリ差出候書面ノ儀ハ私保証致シ候若違背ノ廉等
有之候ハ諸事引受可申候也

肩書前ニ同シ

明治年月日

証人姓名印

但保証人ハ廳下在住ノ人ニ限ル

鹿兒島師範學校

御中

前書之通相違無之候也

戸長姓名印

但他管下ノ者ハ寄留地戸長ノ奥書ヲ

ルヘシ

第三章 致則 左ニ記載アル用書ハ長書ノ出ルニ隨ヒテ改用スルモノトス

第一年 第一期 間六ヶ月 第四級

地理學 一週三時

內國地誌 日本地誌要畧全部

歷史學 一週六時

內國歷史 皇朝史畧正續全部

文學 一週二時

文法及作文 作文書讀並假名交リ記事文法日本文典

物理學 一週四時

物性力水氣學 物理全誌開卷ヨリ五之卷マテ

數學 一週六時

算學 珠算 五則諸分數小數 四則乘除 諸比例 算學教授書等

修身學 修身大意 勸善訓蒙

書學 自在法 圖法階梯

習字 本校編輯習字本

體操 第一年 第二期 間六ヶ月 第三級

地理學 萬國地誌 與地誌略

與地誌略

歷史學 一週三時

史綱編帶

歐羅巴支那歷史

十八史畧

文學 一週四時

作文前級ノ如シ
文法文章軌範

文法及作文

物理學 一週四時

物理全誌 卷ノ六ヨリ

數學 一週三時

珠算 級分算開法求積

算學 筆算 珠算

珠算 差相庭割

教育旨 一週二時

小學教育論

博物學 一週三時

中學動物學同植物學
百科全書礦物篇

動物植物大意

生理學 一週二時

生理健全及解剖學

初學人身窮理

畫學 一週二時

圖法階梯

習字 一週二時

本校編輯習字本

行書

體操

第二年期間 六ヶ月

第二級

歷史學 一週三時

迭洛爾氏萬國史

萬國歷史

文學 一週二時

百二十七

作文

論說等

數學

一週二時

算術 多元一次方程式ヨリ

幾何學

一週二時

平面幾何

幾何學簡明

記簿法

一週二時

單記並複記

帳合之法

經濟學

一週二時

大意

室氏經濟學

化學

一週二時

無機化學

化學最新

教育旨

一週二時

大意

教師必讀

書學

一週一時

容易ナル幾何書法

習字

一週一時

草書

本校編輯習字本

授業法

一週八時

体操

第二年 第二期 間 六ヶ月

第一級

實地授業

右ノ外每級適意ニ左ノ科目ヲ獨見質問スルモノトス

一學室要論

二庶物指教

二 心理學

一 普通小學教科書

第四章 教場規則

第一條

教場ニ在リテハ總テ教師ノ指揮ニ從ヒ齊肅穩靜ナルヲ要ス

第二條

教師ノ許可ナクシテ隨意ニ教場ヲ出入スヘカラス

第三條

受業中猥リニ異見ヲ述ベ或ハ他事ヲ話スヘカラス

第四條

教師ノ許可ナク教場裝置ノ器械書籍等ヲ使用スヘカラス

第五章

第五條 生徒心得

第一條

校則及諸揭示ノ旨趣ニ背クヘカラサル

第二條

本校長監事及教員ノ命ヲ遵守ス

第三條

交誼上相互ニ信義禮讓ヲ竭シ苟モ學生ニ耻ツヘキ舉動アルヘカラサル

第四條

昇校ニハ必着袴或ハ洋服タルヘキ

第五條 昇校ハ課業時限十分前タルヘキヲ

第六條

校内ニ於テ疾走又ハ高呼スヘカラサルヲ
第七條 揭示類及牆壁其他ノ物品ヲ破損シ或ハ樂書スヘカラサル

第七條

庭内ノ樹木ヲ挫折シ及瓦礫ノ類ヲ抛擲スヘカラサルヲ
第八條

第八條

第六章 試驗規則

第一條

試驗ヲ分チテ月末試驗定則試驗大試驗ノ三種トス

第二條

月末試驗ハ毎月末ニ於テ其月内ニ授ケシ各科ヲ試驗シ級中ノ坐次ヲ定メ且其平均點數ヲ定期試験ノ點數ニ加フ

第三條

定期試験ハ每期ノ末ニ於テ其内ニ授ケシ各科ヲ試験シ等級ヲ定ム

第四條

大試験ハ即チ全科卒業ノ試験ニシテ各級ノ課程ヲ試験シ學業ノ成否ヲ定ム

第五條

定期試験又ハ大試験ノ時格ニ合ハサル者ハ仍其級ニ留メテ溫習セシム

但定期及大試験三度以上合格セサル者ハ退學ヲ命スル
コアルヘシ

第四號

第何級生	何某
校印	
小學師範學科	
第何級ニ昇進	
セシメ候事	
年月日	
校名	
第何號	

用紙ハ奉書紙

第五號

證書	
族籍	
姓名	
年月	
校印	
小學師範學科	
卒業候事	
年月日	
校名	
第何號	

用紙ハ鳥子紙

第七章 來觀規則

第一條

授業ヲ觀ント欲スル者ハ名刺ヲ出シテ本校役員ノ差圖ヲ待ツヘシ

第二條

教場ニ在リテ隨意ニ坐ヲ離ルヘ決ラズ且他ノ教場ニ移ラント欲スルキハ課業ノ終ルヲ待チ役員ノ差圖ヲ受ヘシ

第三條

授業ノ方法等ニ付質疑又ハ陳述セント欲スルコアラハ教場ヲ出ル後教師ニ就テ質疑陳述スヘシ

第四條

來觀者ハ一席ニ多クモ五名ヲ過クヘカラス且教場ニ在リ

ヲ談話喫烟スヘカラス
第五條

外套或ハ被帽襟卷等ノ儘教場ニ入ルヘカラス

第六條
來觀者ハ着袴又ハ洋服タルヘシ

第七條
來觀者ハ此規則ニ遵テサレバ退出ヲ命ジ
鹿兒島女子師範學校規則

通則

第一條
本校ハ女子師範學科修業冀望ノ女子ヲ教養スル爲ニ設ル
所ナリ

第二條

生徒ハ年齡大約十四年以上三十五年以下性行善良ニシテ
近易ノ書ヲ讀ミ算術ヲ學ビ得タル者ヲ學ク
但シ體質健康ニシテ種痘或ハ天然痘ヲ爲セシ者タルヘシ

第三條

入學志願ノ者ハ第一號書式ノ保證狀及ヒ第二號書式ノ學
業履歷書ヲ以テ當校ヘ申出ツヘシ

第四條

入學試驗ハ近易ノ書ニ就キ講讀セシメ算術ハ問題ニヨリ
答式ヲ書セシム

第五條

試験以上入學ヲ許ス者ハ第三號書式ノ證書ヲ出シテスル

第六條

生徒ハ當分六拾名ヲ以テ定員トスレモ校ノ都合ニヨリ増減スルコトアルヘシ

第七條

入學ノ上ハ疾病又ハ止ヲ得サル事故アルニ非サレハ退學ヲ許サス

但シ怠惰ニシテ成業ノ目途ナキ者又ハ他ノ事故ニ由リ

第八條

退學ノ上ハ一月ヲ超ルモラ退學モシテアルヘシ
受業料ハ當分ノ内之ヲ收入セス

第九條

生徒ハ總テ通學トス

第十條

生徒課業必用ノ書器ハ總テ自辦スルベシ

但シ時宜ニ依リ之ヲ貸與スヘシ若之ヲ紛失毀損スルハ相當ノ代價ヲ償フヘシ

第十一條

年中休業ハ左ニ例スル所ヲ以テ定日トス

但シ臨時休業ハ其時々揭示スヘシ

一 新年宴會

一月五日

一 孝明天皇祭

二月卅日

一 紀元節

三月十一日

- 一 春季皇靈祭 春分日 三月二十一日
 - 一 神武天皇祭 四月三日
 - 一 秋季皇靈祭 秋分日 九月二十三日
 - 一 神嘗祭 十月十七日
 - 一 天長節 十一月三日
 - 一 新嘗祭 十一月廿三日
 - 一 土曜日 午後
 - 一 日曜日
 - 一 夏期 七月廿一日ヨリ八月三十日マテ
 - 一 冬期 十二月廿六日ヨリ一月四日マテ
- 定期試験ノ時及第ノ者ヘハ第四號書式ノ證書ヲ與フ

第十三條

全科卒業ノ上大試験ヲ行ヒ學力ヲ判シ第五號書式ノ證書ヲ與フ

第十四條

卒業ノ上ハ進退各自ノ志意ニ任カスヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

何使府縣何國何郡何村
 何番地 住居 何使府縣族籍某女姉妹等
 姓 名
 何年何ヶ月

右ノ者御校へ入學志願ニ付別紙履歷書持參爲致候可然御取計有之度候也

鹿兒島縣何町何番地
寄留何使府縣族籍某女姊妹等
証人 姓名 印
年月日

第二號書式

用紙美濃紙

何使府縣族籍某女姊妹等

姓名 何年何ヶ月

何使府縣何國何郡何村宿所全上何番地住居或

寄留十三

年月日何所某學校卒業又ハ某ニ就キ何學科修業算術和
洋何々修業等詳細記載スヘン

年月日

第三號書式

用紙美濃紙

私儀御校入學御許可相成候就テハ總テ御規則ノ通相守可
申依テ証書差出候也

何使府縣何國何郡何村何番地住居
寄留

何使府縣族籍某女姊妹等

姓名 印

何年何ヶ月

鹿兒島縣何町何番地住居
寄留

何使府縣族籍

年月日

証人

姓名 印

鹿兒島女子師範學校

御中

第四號書式 用紙大奉書四ツ切

證書

何使府縣族籍

姓名

鹿兒島女子師範學校

何年何ヶ月

女子師範學科第何級卒業候事

業候事

年月日 鹿兒島女子師範學校

番號

第五號書式

證書

何使府縣族籍

姓名

鹿兒島女子師範學校

何年何ヶ月

女子師範學校卒業候

事

年月日 鹿兒島女子師範學校

番號

教場規則

第一條

生徒ハ凡ソ三十名ヲ以テ一席トシ番號ヲ以テ席次ヲ定ム

第二條

級中學力優等ニシテ品行端正ナル者ヲ選ヒ之ヲ級長トス

第三條

教場ニ於テハ萬事教師ノ指揮ニ從フヘシ

第四條

受業中教師ノ許可ナク座席ヲ離ルヘカラス

第五條

課業時刻ヲ誤ルヘカラス

第六條

受業中猥リニ意見ヲ述ビヘカラス

第七條

教場ニ於テ雑話戲笑スヘカラス

第九條

教場ニ於テ書器等ヲ散亂スヘカラス

第九條

受業時間ノ外教師ノ許可ナク教場ニ入ルヘカラス

生徒心得

第一條

校則ハ勿論諸揭示ノ旨趣ニ背クヘカラス

第三條

職員教示及命令ニ違背スヘカラス

第三條

常ニ言行ヲ謹信義禮讓ヲ重シ荷モ女子ニ似合ハザル舉

動アルヲ忌ム

第四條

衣帶ハ簡約質素ニシテ清潔ナルモシテ要ス決シテ華美ヲ
裝ヒアルカラス

第五條

無届ニテ飲席スヘカラス

第六條

諸揭示書及ヒ其他ノ物品ヲ塗抹スヘカラス

試験規則

第一條

試験ヲ區分シテ大試験定期試験ノ三種トス

第二條

大試験ハ全科卒業ノ後ニ行フヘシ

但シ當日長官及ヒ學務課官員ノ臨席アルヘシ

第三條

從來學力優俊ニシテ格外進歩ノモノハ臨時試験ヲ行ヒ全

科卒業証書ヲ與フヘシ

第四條

定期試験ハ每期ノ終ニ行ヒ學力ヲ判シ進級セシム若シ學

力不足進級ニ當ラサル者ハ尙元級ニ止ムルヲ法トス

但シ學力ノ進歩格外優等ナル者ハ臨時進級セシムルヲ

アルヘシ

第五條

小試験ハ毎月ノ終ニ受持ノ教師之ヲ行ヒ該月授業ノ優劣ヲ判シ以テ坐次ヲ定ム

第六條 生徒ノ學力ハ一科ニ偏倚セザルヲ要ス故ニ各科ノ學力均等セサレバ昇級セシメス

第七條

定期試験及ヒ大試験以上合格ノ者ハ本制規程ノ證書ヲ授與スベシ
第八條 試験席ニ參觀ヲ願フ者ハ參觀規則ニ從ヒ之ヲ許スヘシ
參觀規則
第九條 校長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ許サス

第十條 參觀者ハ名刺ヲ執事ニ出タシ控所ニ相待ツヘシ

第三條 校長ヲ指揮ヲ受ク教場ニ入ルヘシ

第四條

參觀ハ一席三人ト定ム而シテ各席ヲ歴觀スルカ如キハ課業ノ終ルヲ待チ該席教師ノ許可ヲ受クヘシ

第五條

教場ニ於テハ喫烟談話等ヲナシ且ツ教師ノ許可ヲ待タスシテ徘徊或ハ退席ヲ許サズ

第六條

授業方法等ニ不審ノ件アラハ課業ヲ終リ待チ教師ニ就キテ質問スヘシ

唱歌

體操

體操書ニ依ル以下之ニ倣フ

醫學 第四級

史學 一ヨリ三ニ至ル

國史學要

九ヨリ十六ニ至ル

地理學

日本地誌要略

四ヨリ六ニ至ル

物理學

物理全誌

一ヨリ三ニ至ル

博物學

初學須知

一ヨリ四ノ下ニ至ル

修身學

勸善訓蒙

三ヨリ後編ニ至ル

經濟學

家政要旨

全

數學

分數 正轉合率比例ニ至ル

文學

文章軌範

一ヨリ四ニ至ル

作文紀事文ヲ綴ラシム

講義

習字

行書

畫學

寫畫

裁縫

單衣胴衣類

唱歌

體操

第三級

史學

萬國史略

全

地理學

輿地誌略

一ヨリ六ニ至ル

物理學

三三

物理全誌

四ヨリ六ニ至ル

博物學

初學須知

五ノ上ヨリ六ノ下ニ至ル

脩身學

勸善訓蒙

後編三ヨリ五ニ至ル

生理學

弗氏生理書

一ヨリ三ニ至ル

經濟學

寶氏經濟論

一ヨリ二ニ至ル

數學

按分遞折比例ヨリ開平開立ニ至ル

文學

五ヨリ續編ニ至ル

文章軌範

作文前級ニ同シ

講義

習字

草書

書學

器具

裁縫

裕綿入類

唱歌

體操

第三級

史學

十八史略

元明清史略

地理學

輿地誌略

物理學

物理全誌

博物學

初學須知

脩身學

勸善訓蒙

生理學

弗氏生理書

全

全

七ヨリ大尾ニ至ル

七ヨリ十二ニ至ル

七ヨリ十一ニ至ル

後編六ヨリ八ニ至ル

四ヨリ七ニ至ル

經濟學

實氏經濟論

三ヨリ五ニ至ル

化學

化學篇

全

數學

級數ヨリ對數及幾何大意ニ至ル

記簿法

單記

文學

文章軌範

續編三ヨリ七ニ至ル

作文紀事及論說文ヲ綴ラシム

小學授業法

一週四時

畫學

器具ノ陰影アルモノ及花卉鳥獸類

裁縫

袴羽織類

唱歌

體操

第一級

小學實地授業

獨見書目

皇朝史畧

續國史畧

續々國史畧

小兒教育論

教導說

學科課程附考

- 一 文學ハ日本大文典及ヒ文章軌範ニテ文法ヲ講習シ日用
- 書牘紀事論說ノ文等ヲ綴ラシム
- 一 講義ハ生徒ヲ教席ニ集メ之ヲ聽聞セシム其講スル所ハ
- 脩身養生等ノ事ニ係ル
- 一 獨見書ハ總テ生徒ノ獨見ニ任カスト雖モ教員其大意ヲ
- 試問シ且ツ生徒ノ質疑ヲ受クヘシ
- 一 各學科書籍ノ冊數ハ概略ヲ示スノミ實際之ヲ斟酌スル
- トモアルヘシ

○鹿兒島女子師範學校豫科規則

明治十二年十一月廿七日
甲第八十號達

通則

第一條

本校豫科ハ本科修學冀望ノ女子ヲ養成スル爲ニ設タル課程ナリ

第三條

生徒大抵滿十三年以上ニシテ性行善良體質健康ニシテ種痘或ハ天然痘ヲ爲セシモノヲ舉ク

第四條

入學志願シ者ハ第壹號式ノ保證狀及第ニ號書式ノ學業履歷書ヲ以テ當校ヘ申出ルトキハ其學力ヲ試驗シテ適當ノ級ニ入ラシムヘシ

但シ證人ハ鹿兒島內居住ノ身元確實ナル者タルヘシ

第五條 入學ヲ許ス者ハ第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

第六條 生徒ハ當分百名ヲ以テ定員トス

第七條

入學ノ上ハ疾病又ハ止ムヲ得ル事故アルニ非サレハ退學ヲ許サズ
但シ怠惰ニシテ成業ノ目途ナキ者又ハ疾病其他ノ事故ニ由リ缺席ニケ月ヲ超ル者ハ退學セシムルコトアルベシ
本科修業ニテニケ年半トシ之ヲ五級ニ分チ各級六ケ月ノ課程ニシテ一日五時間ノ課業トス

第九條

受業料ハ一八一ケ月金五錢トス
但シ毎月二十日ヨリ二十四日迄ニ納ムヘシ

第十條

生徒ハ總テ自費通學トス

第十一條

每期ノ終リ試業ヲ行ヒ昇級セシム若シ學力昇級スヘカラサル者ハ猶元級ニ留ルヲ法トス
年中休業其他校則等凡テ本科規則ニ全シ

第十三條

全科卒業ノ上ハ大試験ヲ行ヒ學力ヲ判シ第四號書式ノ證書

第十四條

豫科ヨリ本科ニ移ル者ハ必シモ其末級ニ入ラシメス學力
適當ノ級ニ入ラシムヘシ

但シ全科卒業セザル者ト雖モ學力優等ノ者ハ本科生ヘ
移スニアルヘシ

第二號書式 用紙美濃紙

何使府縣族籍某女

姓名

何年何ヶ月

右之者御校豫科修業志願ニ付別紙履歷書持參爲致候間可
然御取計有之度候也

鹿兒島何町何番地 住居

何使府縣族籍

証人 姓名 印

鹿兒島女子師範學校

御中

第二號書式 用紙美濃紙

履歷

何使府縣族籍某女

姓名 印

何年何ヶ月

何使府縣何郡何村

何宿所全上何番地住居或寄留

年月日何所學校卒業又其就何學科修業算術和洋何
々修業等詳細記載スヘシ

年 月 日

第三號書式 用紙美濃紙

私儀御校豫科修業志願ヲ以テ入學御許可相成候就テハ總
テ御規則通り相守可申依テ證書差出候也

何使府縣何國何郡何村町

何番地 住居 寄留

何使府縣族籍某女

年月日

姓 名 印

鹿兒島縣何町何番地 住居 寄留

何使府縣族籍

証人 姓 名 印

鹿兒島女子師範學校

御中

第四號書式 大奉書四ツ切

證書

何使府縣族籍

姓 名

何年何ヶ月

鹿兒島女子師範學校

本校豫科卒業候事

年月日 鹿兒島女子師範學校

番號